



2006 CSR報告書

「市民に愛され市民に貢献する」

シチズンは世界の人々の暮らしに広く貢献します

編集方針

2006CSR報告書は、シチズングループのモノづくりの姿勢、環境保全に対する様々な取り組み、そして、お客さま、株主の皆さま、従業員、地域社会といった社会面に対する取り組みなど、シチズングループが社会的責任に向き合う姿勢をご理解いただくことをこころがけました。

トップコミットメントからは、CSRに対するトップの思いをご理解いただきたく思います。

CSR体制と具体的なCSRの取り組み状況、そしてこれからの期待や課題などを述べると共に、グローバル企業としての取り組みについても多く触れるようこころがけました。

いずれも、情報開示のバランス、透明性、比較可能性、説明責任などにできるだけ配慮するよう努力しました。限られた紙面のスペースを有効利用するために図表、資料などにつきましてはウェブサイトでの開示にも努めましたので併せてご利用ください。

対象範囲

- 経済データ：シチズン時計、国内外シチズングループ（計57社）
- 社会データ：シチズン時計
- 環境データ：シチズン時計、国内シチズングループ（計19社）、海外8拠点
- 記述情報：シチズン時計、国内外シチズングループ（計57社）

対象期間

2005年度（2005年4月1日～2006年3月31日）
ただし、一部活動については2006年度の内容を含みます。



Contents

編集方針・対象範囲・対象期間	1	
トップコミットメント	3	Top Commitment
特集		Special Feature
シチズンとともに	5	
海外拠点でのCSR	7	
ビジョン		Vision
シチズングループのCSR	9	
コーポレートガバナンス	11	
CSR体制	12	
コンプライアンス・リスクマネジメント	13	
社会		Society
シチズンのモノづくり	15	
お客さま	17	
株主	19	
お取引先	20	
従業員	21	
地域社会	23	
環境		Environment
環境マネジメント	25	
環境中長期計画	27	
事業活動と環境負荷	29	
製品での取り組み	31	
地球温暖化防止	33	
廃棄物削減/物流での取り組み	34	
有害化学物質の削減	35	
環境会計	36	
第三者意見	37	
会社概要/あゆみ	38	

参考にしたガイドライン

「環境報告書ガイドライン(2003年度版)」(環境省)
「サステナビリティリポーティングガイドライン2002」(GRI)
「環境会計ガイドライン(2005年版)」(環境省)

主な関連公表資料

決算短信
アニュアルレポート
有価証券報告書
ホームページURL <http://www.citizen.co.jp/>

ウェブサイトでの主な関連開示情報

本文中に  が付された項目は、ウェブサイトにて詳細な情報開示を行っています。

- 個人のお客様
- 法人のお客様
- シチズン環境社会ビジョン(2025)
- プライバシーポリシー
- 腕時計のサポート・お問い合わせ
- IR情報
- 採用情報
- シチズン・オブ・ザ・イヤー
- シチズングループの社会貢献活動
- ISO14001 認証取得状況
- シチズングループの環境負荷状況
- 日本における環境負荷の位置づけ
- シチズンエコラベル基準
- グリーン調達
- 会社案内
- 財務・業績
- CSR活動のあゆみ

より積極的に、よりグローバルに。シチズングル

一粒の麦のごとく

高付加価値創造型企業をめざすための構造改革として、2005年度は電子機器事業と液晶事業それぞれの統合、上場3社を含む国内5社の完全子会社化、上尾精密とシチズン岩手の合併、グループ会社の名称変更、共通イメージのロゴマーク採用、さらに財務、開発、知財・ブランド、人事政策を柱とするグループ戦略本部機能の具体的展開を図りました。環境報告を含むCSR報告書を発行すると共に、「国連グローバル・コンパクト」への参加もいたしました。

こうした動きの中、やはりシチズンのCSRの基本は「人」であるという考えは変わりません。トップダウンでなく、コミュニケーションを基盤とした進め方により、グループ各社の全体にまで行き渡るCSRをめざしています。

2005年度のCSR活動を振り返ってみますと、「守り」だけでなく「攻め」の領域でのCSR活動が推進されてきており、相手の立場を考えながらグループ各社それぞれのケアをしつつ、柔軟に組織化が進んで来た手応えを感じています。

そして、シチズングループとして陣容が広がっていく中で、今後のCSRのあり方について「一粒の麦」を説きたいと思います。最初は一粒の麦からだんだん麦畑が広がっていく……4800年前メソポタミアでできた小さ

な麦が西洋に渡り、エジプトに行き、やがて世界中で息づいたように、我々のCSRへの認識と実行も徐々に広がり、しかも着実に定着していくと考えています。海外の様々な人種や文化の混じる中でも人はみな同じ、共にシチズングループの一員として誇りをもち、CSRをさらに根づかせていきます。

夢を実現する達成感が、次への意欲につながる

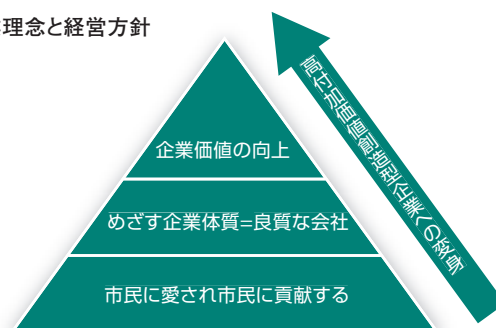
CSR推進4年目となった2006年度は、従業員一人ひとりがもっと自己実現を図るために有言実行で取り組んでほしいと願っています。シチズンの「モノづくり」のDNAは永遠ですが、それだけでなく、もっと積極的に前向きな取り組みを期待したいのです。まず自分がめざすものを宣言する、そしてそれを実現し、達成感を味わってほしいということです。

各自がどんな夢を持っているのか、夢と現実のギャップに不平不満を言うのではなく一歩でも二歩でも前進しよう、というのが2005年度のCSR報告書において私が綴った「夢から実現へ」というメッセージでした。「その夢を実現できた時の達成感、夢が叶ったことを楽しんでほしい」それが今回のメッセージです。

当然、そこには各自に課題が伴います。課題というのは、その人の目の前にあっても認識しなければ存在しないのと同じ。自分の課題は誰かに教えてもらうものではなく、しっかりと自分で認識し解決していくべき。そのよ



●企業理念と経営方針



ープはCSRを着実に推進します。

うな自己推進の姿勢が大切です。それは従業員も然り、企業もまた当然そのように課題に取り組み、発展していかなくてはなりません。

持続性を実現する 高付加価値創造型企業として

CSRに限らず、企業にはサステナビリティすなわち持続性が必要です。そして持続性の実現のために経営的にしっかりした基盤をつくるには、そこにかかわる人たちがどういう思いを持って行動するかが問われます。どういう製品にしますか、どういう売り方にしますか、どこで売りますか、お客さまはどなたですか、などをしっかり見極め、さらには、どういうことをしてはいけませんか、というあり方を考えることも不可欠です。

そうした持続的な収益体質をつくるために、シチズンでは高付加価値創造型の企業をめざしているわけです。そこから得た利益は、企業の理念、社会的責任、信頼と共に未来へと夢をつなぐために役立てていくもの。シチズンは、人から人へ、大切に未来への夢を継続していく企業を志向しています。

ここに、2005年度のシチズンのCSRへの取り組みをまとめた2006CSR報告書が完成しました。各現場の自己実現や思いが伝わってくるような読み応えを感じていただければうれしく思います。シチズングループへのいっそうのご理解ご支援をお願いいたしますとともに、今後ともさらに積極的にCSRに取り組んでいく所存です。

シチズン時計株式会社
代表取締役社長

梅原 誠



シチズンと ともに。

For the citizen

あんなところにも、こんなところにも、シチズンの「モノづくりのDNA」そして「ミクロの世界で培われた高精度の技術力」が息づいています。環境を考え、情報化から高齢化まで時代のニーズに的確に対応した製品づくりによって、シチズンはいつも皆さまの生活に貢献することを志向しています。

CMOSカメラモジュール

CMOSセンサ使用により、携帯電話やモバイル機器のカメラで低消費電力化(従来機比約1/10、圧電モーター使用時)と大幅なコストダウンを実現しました。



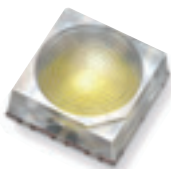
チップLED

このLEDランプは全機種SMD(表面実装デバイス)タイプでオートメーション化が可能なので、製造コストの低減に貢献しています。



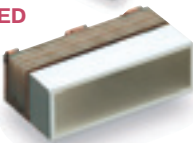
照明用高輝度白色LED

パルス点灯による静止画撮影と連続点灯による動画撮影の2つのモードに対応し、カメラ付き携帯電話の暗所撮影や動画撮影を可能にしました。



カラーLCD用高輝度白色チップLED

高輝度かつ均一な白色光が画像や文字をクリアに表示。世界トップレベルの薄さと明るさを誇ります。



パステルカラーチップLED

低電流で高輝度発光が得られる、世界初のパステル発光色を実現。多彩な12色のバリエーションをそろえ、電子機器の魅力さをさらに上げました。



液晶用LEDバックライトユニット

携帯電話やデジタルカメラの液晶ディスプレイの基幹部品として重要度が増しているデバイスです。より薄く軽く明るく、と業界最高レベルを達成。



小型タクトスイッチ

スイッチとLEDのパッケージ化により、部品点数の削減及び実装時間の短縮を実現し大幅なコストダウンを図りました。



小型マイクロフォン

携帯電話などハイテク機器の音源として使用。小型、軽量設計で汎用性が高く、低消費電流で高音圧が得られるのが特徴。



赤外線データ通信モジュール

赤外線を受・発光素子を活用した高感度センサー。IT機器間を結び「いつでも、どこでも、誰にでも」ネットワークに参加できるユビキタス社会に貢献。



AOオイル・AK接着剤

小型精密機器用に特別に開発。AOオイルは長期間の安定性による環境負荷削減、AK接着剤は高速硬化性によるCO₂削減に役立っています。



サティフゲート(PCセキュリティ)

ネームフォルダに内蔵されたアクティブ型のRF-ID発信機を活用し、ユーザーがパソコンから遠ざかると自動的にロック。情報漏えいを未然に防止します。



デジタルフォトプリンタ

超高画質と世界最高レベルの高速プリントを両立させた業務用デジタルフォトプリンタです。銀塩写真品質を超える新基準を確立しました。



モバイルプリンタ

わずか4インチのモバイルプリンタ。レシート、チケット、単票紙、バーコードなどに対応でき、無線接続、携帯電話接続も可能です。





燃焼圧センサー

エンジンの各気筒に直接取り付け燃焼圧を検出。燃焼状態の解析により、高度なエンジン制御が可能で、自動車の排ガス規制や燃費向上に大きく貢献。



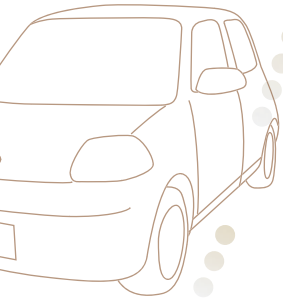
自動車用ABS部品

滑りやすい路面の走行や急ブレーキ時にもタイヤがロックしないアンチロックブレーキシステム。車の安全走行を支え、世界中の人命を守っています。



水晶ジャイロセンサー

物体の回転を検出するセンサーで、カーナビ、車体制御、カメラの手ブレ補正などに使用。独自の非対称3脚構造で小型、低ノイズ、高分解能、温度ドリフトの少ない製品が可能に。



DVDピックアップ用液晶光学素子

DVDレコーダーやパソコンの光ディスク装置にレーザー光を制御する液晶素子を使用。光ディスクの記録品質向上、記録ディスクの互換性確保にパワーを発揮。



HDD用小型ガラス基盤

携帯電話、携帯音楽プレーヤーでのデータ記録の大容量化に、精密に磨き上げられたガラス基盤の記憶装置(HDD)の小型化が貢献しています。



電子血圧計

高齢者にも使いやすい一目でわかる大きなスイッチと見やすい大きな液晶表示が特徴。4人分までの測定結果が保存でき、パソコンへの無線通信も可。



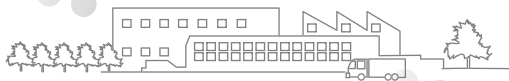
電子体温計

30秒で測定可能な予測検温機能つき。先端部が柔らかく曲がるので検温部にやさしくフィット、子供からお年寄りまで安心して使えます。



手のひらスプーン

介護の現場の声を生かし、縦持ち型グリップを採用。上肢障がいの方、指・腕・肩・肘などの動きが不自由な方の、自力での食事摂取をサポートします。



ポリマーネットワーク液晶

透過率が非通電時には数%、通電時には80%以上になるシャッター機能を持つ液晶です。一眼レフカメラのファインダーに使われ、操作性を向上。



強誘電マイクロ液晶ディスプレイ

3色のLED採用により、色の再現性を高め消費電力を低減。また、Si-waferをベースにしているので、インターフェースにおける無駄な資源対策にも役立っています。



小型精密CNC自動旋盤

携帯電話など小型・複雑化している製品の小さな部品加工に対応。パソコンや家電製品に使われている半導体の検査用治具部品の加工もできます。



接触式変位センサー

寸法の検査装置などに組み込む高精度な計測器です。小ささと豊富な機能を併せ持ち、組み込んだ装置の小型化と単純化に貢献。時計、自動車機器、AV製品などの高品質を支えています。

技術革新の結晶、電波時計

シチズンは絶えず技術革新を続けています。その具現化された代表的な製品が、電波送信所から送り出された標準電波を受信し10万年に1秒しか誤差のない「電波時計」です。電波時計には、時刻情報をキャッチするアンテナとそれを変換して表示する回路が必要です。アンテナの素材選び、コイルの巻き方、回路システムの信号処理技術の向上など、数々のハードルが技術陣の前に立ちふさがりました。しかし、シチズンの時計づくりのDNAに根ざした社員た

ちのあくなき開発努力によって、1993年に国内メーカー初として電波時計を製品化しました。以後、電池交換が不要なエコ・ドライブ搭載、小型化、薄型化と進んできました。世界初のフルメタル電波時計、世界最小のムーブメントの誕生による女性用電波時計も実現しています。

技術と美の融合を求めた電波時計はシチズン独自の開発による代表的な製品であり、これからも進化し続けます。

ドイツ・CITIZEN MACHINERY & BOLEY GmbH (CMB) での取り組み



CMBマネジメントチーム

CMBでは、シチズン時計のCSRへの取り組みに呼応し、シチズン企業行動憲章を基に社内マネージャーによる検討チームを編成し、日本文化での表現や問題意識をドイツ文化に合うように手直ししました。その後、従業員へ配布し、社内での意識の共有を図っています。



組立作業



調整作業

特集 2

国連グローバル・コンパクトに参加
基本に、各国の文化や意識の違いを

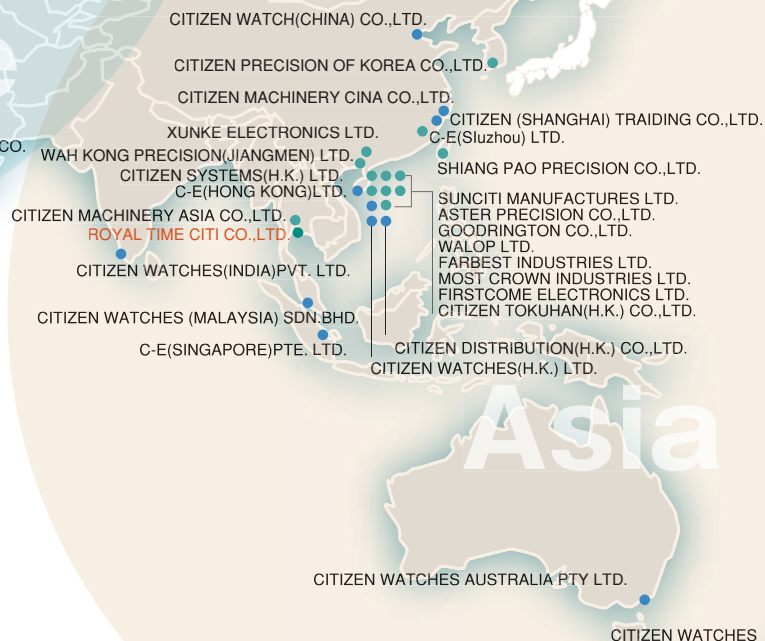
海外拠点



ISO9001は2002年に取得し、またISO14001も2005年に取得しています。

対外的には、学生の教育訓練受け入れ、文化事業のスポンサー支援、大学施設への機械製品貸し出しなど、様々な形で地元社会への参加をしています。

また、工場再開発のための市や周辺住民との交渉を通じて、当社の地元における役割と存在意義を理解しあう機会を得ました。今後も地元Esslingen市及びBaden-Württemberg州との交わりを深め、社会への貢献を進めていきます。



- 販売拠点
- 生産拠点



組立作業



COA従業員(ロサンゼルス事務所)

表明をしているシチズンでは、「シチズンらしさ」を考慮したCSR活動を行っています。

でのCSR

寺院僧侶への
食べ物寄進

CECOL, INC. CITIZEN WATCH CO. OF CANADA, LTD.
CITIZEN WATCH CO. OF AMERICA, INC. MARUBENI CITIZEN-CINCOM INC.
CITIZEN SYSTEMS AMERICA CORP.
CITIZEN DE MEXICO S.A. DE C.V.
CITIZEN LATINAMERICA CORP.
CITIZEN WATCH DO BRASIL S.A.



CSR委員



ニュージャージー事務所

タイ・ROYAL TIME CITI CO., LTD.(RTC)での取り組み

RTCでは、環境保全と地域社会への貢献、従業員の満足度向上に重点をおきCSRに取り組んでいます。例えば、ISO14001をメインツールとした地球環境保全活動や、寺院僧侶への定期的な食べ物寄進、学校への机や椅子の寄付、近隣の貧困農家からの農作物買い取りなどを行いました。また、従業員の衛生意識向上のために、全員に体温計を配布し、健康管理の必要性和強化を訴えました。これからも、さらにCSR活動を企業活動指針の中心に位置づけ、地道な活動を展開していきます。



RTC従業員

シチズングループのCSR

「シチズン」の社名を尊ぶ企業理念のもと、グループが一体となってCSRに取り組んでいます。一人ひとりの意識と行動のバックボーンとなるシチズン企業行動憲章を掲げ、グローバルかつ長期的な視野をもって推進しています。

企業理念

シチズンの掲げる企業理念「市民に愛され市民に貢献する」とは、「市民に愛され親しまれるモノづくり」を通じて世界の人々の暮らしに広く貢献すること。これはもともとCSR的な考えを含んでおり、今日のCSRへの取り組みによって、いっそう企業理念の具現化を推進するものです。

シチズングループのCSR

シチズンは、グループに属する一人ひとりが、誠実で健全、そして自由闊達な組織体と企業風土をつくることをめざしています。その上で、あらゆる面で、「良質な会社」でありたいと願っています。

国内・海外のグループ各社は、シチズンの企業理念を共有化した上で、各社の企業風土、文化、歴史、事業特性、地域特性、慣習などを尊重しそれぞれの責任のもとにCSRに取り組んでいます。

グローバル企業としての社会的責任を果たしていくために、現在、海外拠点の人権・労働・安全・衛生・環境といった分野への取り組みを強めています。

環境社会ビジョン

持続可能な社会を求め、これからの地球環境のために、シチズンはどのような活動を行うべきか、その方向を定めるシチズン環境社会ビジョン（2025）を策定しています。

シチズン環境社会ビジョン（2025）

シチズンは
『市民に愛され、親しまれるモノづくり』
という理念に基づき、
人々が心豊かに安心して暮らせる
持続可能な市民社会に貢献します。
シチズンは“一番近く”で
地球と人にやさしい製品をお届けします。

2004年7月20日策定

シチズン企業行動憲章

わたしたちは、あらゆる法令、社内規則を守り、企業行動憲章に従って行動します。

シチズンは、“市民に愛され市民に貢献する”企業理念のもと、

1. 安全と品質に十分配慮した製品とサービスを顧客に提供します。
2. 商取引においては、公正、透明、自由な競争を行い、また政治、行政とは健全な関係を保ちます。
3. 企業情報を積極的かつ公正に開示するとともに、適切な情報管理を行います。
4. 地球環境を大切に、環境方針に従って行動します。
5. 良き企業市民として、地域社会との共生を大切に、社会貢献活動に努めます。
6. 安全で働きやすい職場環境を確保するとともに、従業員の能力、活力を引き出し、人格、個性を尊重します。
7. 反社会的勢力及び団体には、毅然たる態度で対応します。
8. 海外においては、その文化や慣習を尊重し、現地の発展に貢献するよう努めます。

2003年10月23日制定

この企業行動憲章を遵守するために、会社と従業員は、不断の努力を行います。万一、本憲章に反するような事態が発生したときは、会社は自ら問題解決と再発防止にあたり、社会に対して適切な報告を行います。また、権限と責任を明確化した上で厳正な処分を行います。

参考：
「企業行動憲章実行の手引き（第三版）」
（日本経済団体連合会）



www.citizen.co.jp/social/kankyo/vision
シチズン環境社会ビジョン（2025）

グローバル・コンパクトへの対応

シチズン時計は、2005年4月に「国連グローバル・コンパクト」に参加を表明し、グループを挙げてグローバル・コンパクトの10原則を支持・尊重しその原則を実行することをめざしています。

グローバル・コンパクトへの参加の表明は、シチズンのグローバル企業としてのマネジメントの明確なメッセージとして前向きに海外拠点にて受け止められています。2005年12月に海外の生産・販売36拠点でグローバル・コンパクト10原則に対する実態調査を行いました。

この実態調査から、人権、労働、職場の安全・衛生などの問題についてより一層の関心を深めその状況の把握に努めることが重要であるとの認識をもちました。

また、環境問題に関しては、土壌汚染、水質汚染など、現地社会への環境配慮の取り組みは始まってきています。今後は、省資源、リサイクル、省エネといった部分にも対応をしていきたいと考えています。

「国連グローバル・コンパクト」の10原則



●人権

1. 企業はその影響の及ぶ範囲内で国際的に宣言されている人権の擁護を支持し、尊重する。
2. 人権侵害に加担しない。

●労働

3. 組合結成の自由と団体交渉の権利を実効あるものにする。
4. あらゆる形態の強制労働を排除する。
5. 児童労働を実効的に廃止する。
6. 雇用と職業に関する差別を撤廃する。

●環境

7. 環境問題の予防的なアプローチを支持する。
8. 環境に関して一層の責任を担うためのイニシアチブをとる。
9. 環境にやさしい技術の開発と普及を促進する。

●腐敗防止

10. 強要と賄賂を含むあらゆる形態の腐敗を防止するために取り組む。

CSR経営の進捗と課題



CSR室
室長 中嶋 康雄

CSRの原点は、シチズンにかかわる一人ひとりが日々の業務の中で取り組む姿勢に求められます。それは、「誠実性」という言葉につきます。一人ひとりが仕事に対し誇りと満足感を持ち、高い目標意識を掲げて自己研鑽に励むことにより「良質な会社」をグループ全員で作りたいと思っています。

自由闊達で良好なチームワークは、風通しの良い社風をもたらし、私たちのコンプライアンスの感性を自然と磨いてくれるものと思います。

シチズンという社名に裏打ちされた企業理念を掲げる私たちは、本業を通して「市民に愛され、親しまれるモノづくり」

に努めるとともに、「環境保全」、「社会との共生」といった社会の要請を正しく理解し、それを企業活動のプロセスの中に組み込むことによって社会からより信頼され尊敬される会社でありたいと願っています。

CSRの社内横断的な取り組みである下請法遵守委員会、個人情報保護対策委員会、安全衛生委員会、環境管理委員会などはそれぞれの分野で着実な取り組みがされています。

人事部門は、ダイバーシティの取り組みをスタートさせ、少子化、高齢化といった社会の変化に対応する施策を打ち出しています。グローバル企業の社会的責任として、取引先にもCSRの実践を求めるサプライチェーンマネジメント（CSR調達）の取り組みが資材部門の方針の中に掲げられたことはCSR推進上大きなステップといえます。これからの実践に期待がかかります。社会貢献の専任部署が設置されたことも従業員参加の社会貢献の一步を踏み出したことで感慨深いものがあります。

ビジョン

コーポレートガバナンス

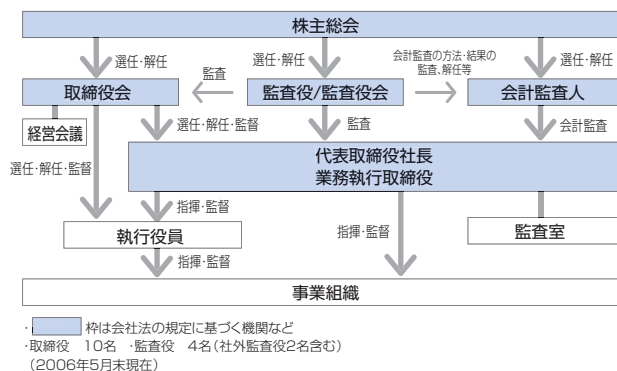
グループとして総合力を高める企業体制に変わり、ガバナンス体制も変わってきています。今後も、適切なコーポレートガバナンスの仕組みを構築していきます。

ガバナンス体制

経営の執行と取締役会

シチズン時計は、会社法の定める監査役会設置会社です。取締役会は、当社の業務内容に精通した社内取締役10名で構成されており、業務執行に関する決定を行うとともに、業務執行の監督を行っています。業務執行に関しては、各事業担当の取締役もしくは使用人を兼務する執行役員が業務運営を行っています。また、常勤取締役全員と常勤監査役1名で構成する経営会議を毎月開催し、取締役会の決議事項その他経営上の重要事項について十分な議論と事前審議を行っています。

●シチズン時計株式会社 コーポレートガバナンス



経営の監督と監査役会

監査役会は社外監査役2名を含む4名で構成されています。各監査役は、企業の健全で持続的な成長を確保し、社会的信頼に応える統治体制を維持するために、取締役会及び事業ごとの会議などへの出席、重要な決議書類などの閲覧、業務及び財産状況の調査などにより取締役の職務執行全般の厳正な監査を実施しています。

シチズン時計では様々な経営執行の意思決定の場に監査役が同席しており、そこでは実直で活発な意見交換を行っています。月1回の社長と監査役会との定期会議も例外ではありません。

グループ経営が進む中、2005年7月、グループ監査役連絡会を設立しました。これは、各関連会社の監査役が、情報の共有を図り、株主や他のステークホルダーの視点から監査役としての役割を果たすことをめざしています。

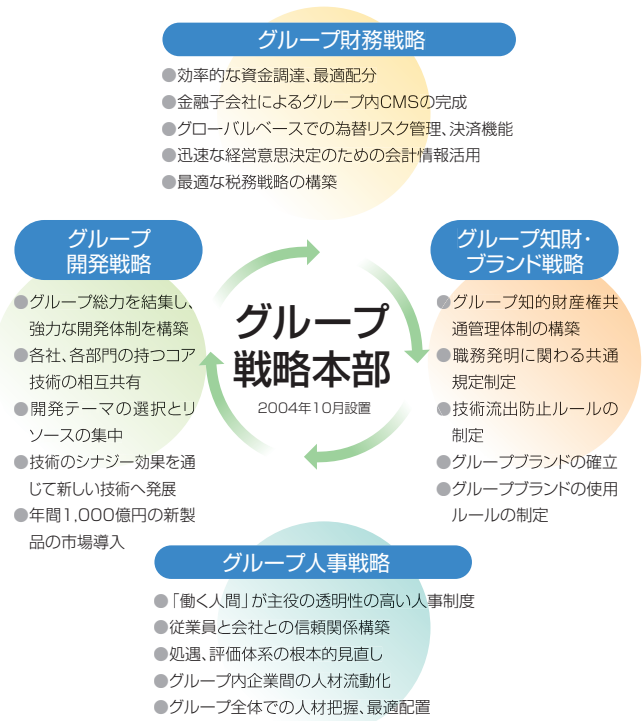
グループ経営に向けて

シチズングループでは、企業を取り巻く環境の変化に対する競争力を強め、グループとしての総合力を高めることを目的に、2004年10月にシチズン時計社長が本部長を務めるグループ戦略本部を設立しました。また、2005年10月、上場3社を含め5社の完全子会社化も実施しました。これらの変革により、問題の共有化、認識の共有化、具体的な目標の共有化が図られ始めました。

すでにグループ全体での資金の効率化、開発リソースの整理とテーマの選択・集中、また知的財産の共有など、シナジー効果は着実に現れてきています。また、関連各社ではグループ連結を意識した視点で考え、判断する姿勢が見えてきました。

今後は、本社の本部機能をさらに高度化しグループ全体の透明性を高めるガバナンス体制の強化をめざします。そして、本部機能の強化がグループとして良い結果につながるよう慎重に取り組んでいきます。コミュニケーションを重視し様々な角度から変わり行くシチズングループに適したコーポレートガバナンス体制を着実に構築していきます。

●グループ戦略機能の強化



CSR体制

CSR委員会、CSR推進委員会、各種委員会など、着実かつ実践的なCSRを推進する体制を整えています。目標設定と評価による見直しも行い、今後の活動に反映できるよう工夫しています。

CSR推進体制

シチズンのCSR体制は、シチズン時計の社長自らがCSR最高統括責任者としてグループ全体のCSRを推進する役割を担っています。そして、社長の直属の機関として「CSR委員会」が設置されています。CSR委員会は、1か月に1回の割合で開かれCSRに関する様々な施策の立案を行います。そして、2～3か月に1度開かれる「CSR推進委員会」にてCSR委員会から様々な提案・報告がなされ、討議の上各職場でCSRの実践に移されます。

さらに、「各種委員会」もCSRの実践に大変大きな役割を果たしています。これらの各種委員会はいずれも社内横断的な組織としてCSRの基本理念をそれぞれの分野で実現するために取り組んでいます。各種委員会は、国内グループ各社にも働きかけグループ全体でそれぞれの取り組みが図られるよう活動しています。

また、国内グループ各社には、CSR担当責任者が設置され、各社の事業環境に適したCSR推進体制が構築されています。定期的に「シチズングループCSR連絡会」を開きグループ間のCSRの様々な課題の討議、情報交換、講師を招いての教育・研修を行っています。

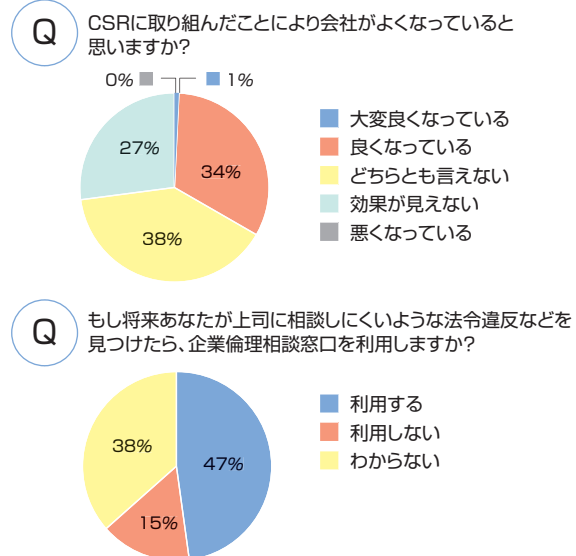
海外グループ各社では、CSRの取り組みをそれぞれの国情に合わせた方法で各社の責任の下に行われています。また、現在グローバル・コンパクトの尊重とCSR調達に向けた働きかけをCSR委員会より行っています。

CSR部門別実践目標と自己評価

シチズン時計では、CSR推進委員が主体となって年度初めに各部門で「CSR部門別リスク自己評価」を行いリスクの洗い出しを行っています。その結果を基に、「CSR部門別実践目標」が設定されます。1年が経過した年度末に、それらの目標の達成状況を自己評価しCSR委員会に報告します。

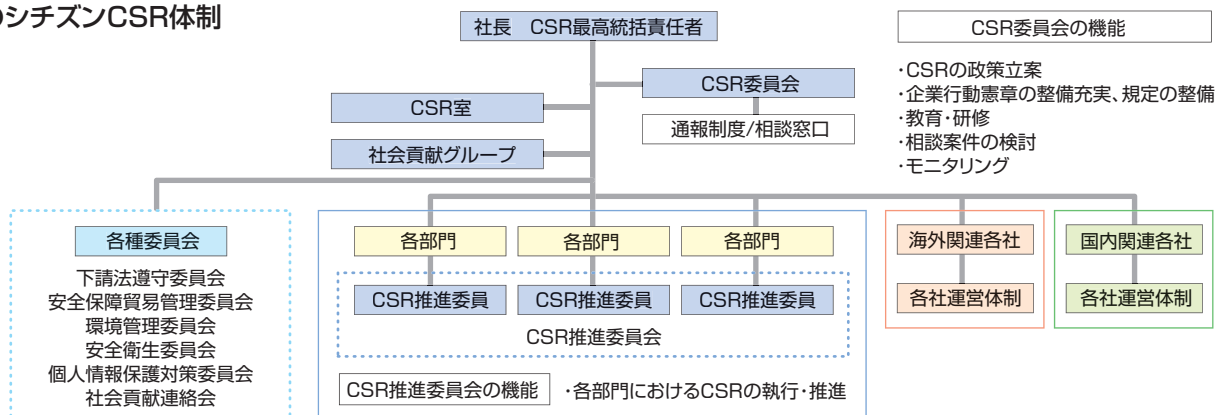
CSR委員会では、CSR実践の総括に当たる全社的な評価を行い、社長を初め各担当取締役、執行役員、各部門のCSR推進委員にフィードバックします。

●シチズン時計全従業員（契約社員、派遣社員含む）へのCSRアンケート結果（2006年3月実施・回答率47.7%）



シチズン時計では、毎年CSRの社内の意識調査を行っています。

●シチズンCSR体制



コンプライアンス・リスクマネジメント

シチズンは、公正、安心、安全を確立した信頼される企業であるために、コンプライアンスの重要性をかみしめ、さまざまな観点から取り組みを推進しています。

コンプライアンス

コンプライアンス体制

シチズン時計では、コンプライアンス意識の徹底のために、新入社員教育、新管理職教育、また社内広報などを通してコンプライアンス違反が万一にも発生した時の会社に与えるダメージの大きさを考え、また家族を守り、自分自身を守るためにいかにコンプライアンスが大切かを啓発しています。シチズンはCSRの基本である、誠実性、健全性、透明性、そして自由闊達という企業風土をつくることによってコンプライアンスリスクを限りなく小さくしたいと考えています。また、各部門で毎年「CSR部門別実践目標」を作成する際に、まず「CSR部門別リスク自己評価」を行い、コンプライアンスリスクの洗い出しを行っています。

社内通報制度

シチズン時計は、コンプライアンス違反の発生を予防するため、社内通報制度を設け、「シチズン企業行動憲章運用体制」の中で次のように説明しています。

「私たちの行動が、万一、法令や社内規則あるいはこの企業行動憲章に反していると思われる場合は、ただちに、上司に相談してください。また、上司に話しにくい場合は、企業倫理相談窓口（ホットライン）に連絡してください。相談窓口はCSR委員会を開くとともに、案件を調査し、必要と判断された場合は、適切な対応をとるよう経営トップに報告します。その場合、通報者の秘密は厳守されること、通報したことにより通報者に不利益な処遇がなされないことを会社は保証します。」

●社内通報制度の利用実績

	2004年度	2005年度
相談件数	11件	4件

内部監査体制

監査室とCSR室は、社長の要請のもと、グループ各社及びシチズン時計各事業部について、四半期ごとに内部監査を行なっています。併せて、コンプライアンス監査も実施しています。

リスクマネジメント

アスベスト問題

アスベスト問題の対策指針を制定し、グループ全体へ展開しました。各社にて建物及び生産設備類のアスベスト使用実態調査を行い、飛散の恐れのある箇所に対して除去など適切な飛散防止処置を実施しています。



アスベスト調査

安全保障貿易管理

シチズンの製品・技術は大量破壊兵器などに直接関係するものではありませんが、法令で規制されている貨物・技術を不正に輸出・提供することのないよう、安全保障貿易管理規則を制定し、また社長直属の安全保障貿易管理

下請法警告から一年が過ぎて



下請法遵守委員会
委員長 深瀬 義文

2005年度は、下請法遵守活動の強化を目的とした「下請法遵守委員会」を設置し、2004年10月に公正取引委員会より警告を受けた、「注文書の交付義務違反」及び「書類保存義務違反」についての業務改善を進めました。

その結果として、注文書の交付と書類の保存については、

社内の各部署で下請法に則した処理が行われるようになりました。しかし、改善した業務が後戻りしないための歯止めについて、一部の部署ではまだ不十分な箇所があると認識しています。この点について委員会としては、コンピュータシステムを利用して歯止めとする方針で社内の指導を進めているところです。

このように、下請法の順守状況は着実に向上していると感じていますが、今後とも、委員会事務局による定期的な監査と下請法教育の徹底により、社内の遵守体制の維持強化に努めていきます。

委員会も設けて、需要者や用途のチェックなど厳重な管理を行っています。

情報セキュリティ

シチズングループでは、安全な情報システムを維持するために、コンピュータウィルスからパソコンを守るアンチウィルスソフトの導入、外部からインターネットを経由して社内への不正アクセスを防ぐファイアウォールの設置、ネットワークを介して情報をやり取りする際に盗聴、漏洩などを防ぐ情報の暗号化など様々な方策を立てて実施しています。

さらに、シチズン時計では、社内ですぐ利用しているパソコンを第三者が不正に利用することを避けるためにシチズンが開発したサティフゲート（PCセキュリティ）を利用しています。これは、利用者が離席をするとパソコンがロックされ第三者はパソコンの操作ができなくなる仕組みで、主に部課長以上が利用しています。また、シチズン時計全従業員を対象としたe-ラーニングによる情報セキュリティ教育を実施しています。

個人情報保護

シチズン時計では「個人情報保護対策委員会」を設置し活動をしています。またグループ会社においては責任者を決めて活動を行っています。

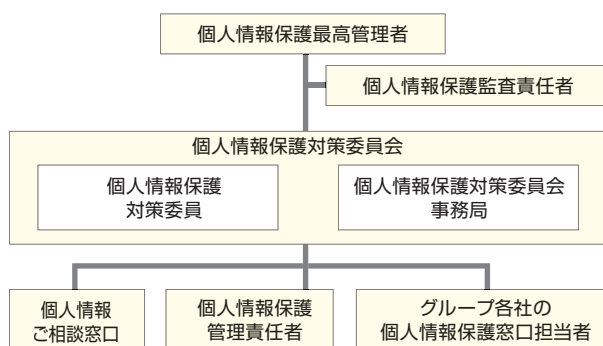
具体的な施策としてグループ全従業員を対象としたe-ラーニングとセキュリティを強化したサーバシステムの

導入を行いました。e-ラーニングは、2006年3月までにグループ23社の全従業員のうち約70%の教育が完了しています。

サーバシステムはお客さま情報を集中管理しており、許可された人以外の参照や変更操作ができません。また、許可された人による参照、変更操作についても、後からその履歴を探ることができます。

これらの対策が功を奏して、2006年3月現在、個人情報流出した、ないしはその恐れがあるというような事態は発生していません。

●個人情報保護管理体制



www.citizen.co.jp/policy/privacy
プライバシーポリシー

グループ会社での取り組み

シチズンファインテック

シチズンファインテックが、CSRに取り組むに当たり最初に行ったのが役員・部門長の勉強会です。企業不祥事発生の原因やメカニズムを他社の事例より学び、会社にとってCSRの実践が必要であることをまず経営トップ及び幹部から理解を深めました。そして、シチズン時計の企業行動憲章に基づいて、当社の基本理念を見直し、2005年4月1日に施行しました。同時に社内CSR

システムのPDCAサイクルが回るように、フロー図やCSR相談制度に関する規定、緊急対策本部運用規定などを整備し、CSRハンドブックとして1冊にまとめ全社員に配布して教育しました。また、季刊誌である社内報に毎回特集を掲載し啓発活動を継続しています。「ステークホルダーの期待に応える」ことを社員一人ひとりが考えられるようになることを目標に取り組んでいます。



CSRハンドブック

シチズンのモノづくり

時計づくりのDNAが息づく、シチズンのモノづくりの現場では、常にチャレンジ精神の基、お客さま満足度の追求を極めていきます。

——新しい世界に挑戦し続けるシチズングループのメッセージを込めて



グローラインを配したブルーベルトの上にCITIZENの文字。それは世界を照らす朝日のように、新たな地平に向かってあくなき挑戦を続けるシチズングループの姿勢を表しています。

Micro HumanTech

- Micro** …… 時計を出発点に小型化・精密技術を追求し、生産・加工・実装等の分野で世界をリードする高精度・微細技術を生み出し続けるシチズングループの「モノづくり」のドメインを表しています。
- Human** … 「世界の市民に愛され親しまれる」というシチズンブランド命名の精神を受け継ぎつねに人と暮らしに目を向け、人々の期待や望みに応えていく「モノづくり」の理念を表しています。
- Tech** …… 優れた精密加工、計測、省電力、生産等の技術を駆使して、シンプルで洗練されたデザイン・機能を実現する信頼性の高い「モノづくり」の基盤を表しています。

マイスターの匠の技が冴える

シチズン平和時計には、最高級の技能レベルを修得し、厳しい技能検定制度に合格した最高ランクの組み立てに従事する「マイスター」という称号を持つ人たちがいます。技術と美の融合の粋を極めた「高級電波時計」、腕時計の基本性能を追い続ける「ザ・シチズン」、時を楽しみ、時を哲学するこだわりのコレクション「カンパノラ」など、これらの高級商品群の組み立てを受け持つのが、マイスターです。

例えば、電波時計は、全部で150種類もの部品をピンセットなどにより一定要領のメタルケース内に組み込んでいく精緻を極めたもの。マイスターは、最終的に完成した時計の裏蓋にシリアルナンバーを刻印し誰が製作したのかすぐわかるようになっています。マイスターの周りには、組み立て専用の小型治工具を手元に置き、マイスターエリアを確保しています。

マニュアルだけでは実現できない匠の技、またそれを継承していくことがシチズンブランドの信頼性にもかかわってくるものといえましょう。

時計組み立てマイスター



たゆまぬ技術追求が ドライバーと家族の安全と命を守る

シチズンセイミツは、時計部品で培った精密加工技術、例えば自動旋盤による切削、メッキや熱処理、二次切削加工、自動組み立て技術を最大限生かし、自動車用のABS（アンチロック・ブレーキ・システム）の心臓部となる「ソレノイドバルブ（電磁力を利用して開閉操作を行うバルブ）の構成部品を製造しています。現在、世界のABSを搭載する新車の3分の1相当の生産数を誇ります。ISO9001の認証取得に加え、自動車部品の品質認証ISO/TS 16949を取得し最高の精度と品質が要求される自動車部品の重要な一部の製造を担っています。



自動車部品の自動旋盤加工

所沢事業所・新研究開発棟

ライフスタイルを豊かに、 明日の価値を創造する

シチズン電子は、時計生産によって、精密加工組立技術、精密金型技術、高密度実装技術、表面実装技術、大量生産技術といったコア技術を培ってきました。さらに、パッケージ技術に磨きをかけ数々の当社らしい製品を世に送り出してきました。特に、LEDランプのトップメーカーとしてLED照明の可能性を高く評価しその開発に取り組んできました。照明の光源といえばこれまでは蛍光灯や白熱灯でしたがついに一般照明用LEDランプが完成しました。白色LEDで世界最高の発光率を誇る「CL-L100」です。

それは、4×40×1ミリメートルという非常に小さな薄型のパッケージです。1日10時間程度使用しても10年間はもつため、ランニングコストを大幅削減。さらにその光源自体が熱を含まないため、読書灯やフットライト、生鮮食品用ライトなど発熱を嫌う場所にも最適です。また、薄型パッケージのためデザインの自由度、多様性が高く、自動車のヘッドランプとしても使用可能です。

実装工程



人に優しい夢工場から、 使う人にも優しい製品を

シチズンマシナリーでは「顧客満足度で世界ナンバーワンを目指す」という目標のもと、機械に人が使われるのではなく人が主体の工場をめざし、人材育成、処遇改善など人を大事にする有（優）人化工場（＝「人に優しい夢工場」）を実現してきました。そこから「製品をつくる人」と「製品を使う人」が共に感動を得られる生産をめざし続けています。

こうした体制から生まれた製品は、CincomシリーズのCNC自動旋盤を始め、業界から高い評価を得ています。「Cincom K16」は、第35回（2005年度）機械工業デザイン賞の日本産業デザイン振興会賞を受賞しました。



機械の精度出し調整



Cincom K16

マイクロ・ヒューマンテックの新たな可能性を創造する MHT開発本部

「Micro HumanTech」の頭文字を取って名づけられたMHT開発本部は、シチズングループの開発拠点として、大変重要な役割を担っています。その役割は時計・液晶・水晶などの既存のコア事業を新技術で躍進させること、そして新規事業を興す種まきをして大型のテーマを育成していくことです。

ますます多様化、個別化する、将来のユーザーニーズを先取りして、「喜ばれ、求められる製品」を生み出していくことをめざしています。

MHT開発本部では、省エネルギー、リサイクルに開発当初より意識的に配慮することを重要視しており、その実行のために研究開発段階から製品環境アセスメントを実施しています。

時計で培った多彩な独創技術を発展させ、次世代領域に挑む「Micro HumanTech」をテーマに世代を超える新たな技術領域を開拓、日々躍進し、将来に利益を生み出せる技術の確立をめざし研究開発を進めています。



お客さま

お客さまの声を活かし、お客さまに愛され満足していただける製品を通じて、信頼の絆を育むことがシチズンの願い。時代の流れを超えてなお大切に保っていけるよう、努力を続けています。

時計事業での取り組み

品質へのこだわり

2004年10月のシチズン商事との合併に伴い、企画・開発・生産・販売・CS（カスタマーサービス）までの一貫体制が構築できました。お客さまにご満足いただける商品をお届けするためには、お客さまの立場で従業員一人ひとりが業務遂行することが大切となります。

お客さまにご満足いただくための第一の条件は高い品質の維持です。時計事業統括本部では下記の品質方針を掲げ、それが確実に展開できるように仕組みを構築しています。

品質方針

「顧客満足向上を武器に事業発展をめざそう!」

- 1) 市場や顧客の要求品質の変化、ニーズをきめ細かく的確に収集し、情報を共有化し、組織横断的に活動することで要求事項にスピーディーに対応します。
- 2) 顧客満足向上のための品質目標を定め、一人ひとりが役割を果たすべく目標を共有化し、目標達成のための「仕組み＝品質マネジメントシステム（QMS）」を効果的に運用し、継続的に事業成果や事業発展につなげていきます。

2004年10月策定

時計購入のお客さまに対する責任

常に「お客さま視点」で、CS活動の向上をめざし取り組みを行っています。2000年度には、アフターサービス重視であった活動から、お客さま満足度を重視した活動が行える体質・体制への変革。また、2004年度から時計事業で取り扱う各製品を統括したCS活動への拡大展開を進めています。

ご購入いただいた製品に対するお客さまの「満足感」「安心感」「信頼感」の期待に沿えるよう、様々な要求や品質の変化を敏速にキャッチし、広範囲に渡りお客さまの声を吸い上げることに努めています。それらのお客さまの声を生かし、開発、製造、販売、サービスへの品質改善、向上に向け積極的に活動しています。

お客さまとのコミュニケーション

2000年度にお客様時計相談室を開設し、お客さまからのご意見、ご相談の対応を続けてきており、2005年度は、電話、メールなどのお問合せが約4万件ありました。

各製品のお問合せ内容は、お取り扱い・仕様に関するものが多く占められています。お客さまの声を反映するために、2005年度からテキストマイニング解析・分析を導入し、CS向上へ努めています。

一方、フリーコール接続率、メール回答率の目標値を定め、スピーディーな対応もこころがけています。



お客様時計相談室

ビフォー・アフターサービス

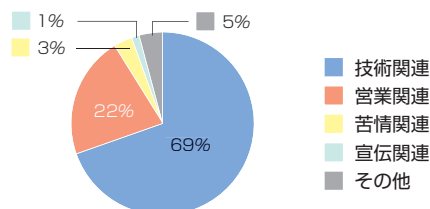
多機能製品のお取り扱いに関するお問合せが増えている状況に対応すべく、時計業界では初めてとなる動画画像による説明を日本語、英語、スペイン語、中国語にてウェブサイト上で行っています。

また、技術情報、FAQなどもホームページを通して伝えできるようになってきました。CSレベルの向上には修理サービスに対してご満足をいただくことが重要不可欠であり、情報共有化の基、適切な修理、修理技術の認定制度、修理期間など目標を定め、海外のサービスセンターを含め均質なサービス提供をするための体制づくりに努めています。

今後もさらにCS向上に向けた活動を加速し、お客さまにご満足いただけるよう取り組みを行っています。

●お客様時計相談室 問合せ内容

(2005年1月～2005年12月)



www.citizen.co.jp/support
腕時計のサポート・お問い合わせ

産業用機械事業での取り組み

2004年より「お客さまの視点で考え行動する」「誰よりも早くお客さまに満足して頂ける製品とサービスを提供する」を基本にお客さま満足度で世界No.1をめざしてきました。

国内営業本部ではその展開として日々お客さま及び販売店さまと接している第一線の営業担当者からの情報を有効活用したマネジメントレビューに取り組んでいます。

具体的には、市場に投入した新製品の完成度をさらに高め、既存機のバージョンアップを図るための「顧客要求」、お客さま及び我々の経営に深刻な影響を与えかねない「クレーム情報」、数年先のマーケットを予測した「市場動向」、業界のトップシェアを維持するための「競合情報」、変化に対応するための「自部門の改革」といった5項目の個人週報を吸い上げています。その後、毎月営業部の分析メンバーが開発、サービス、製造など、その他の部門への情報提供を行い、2ヵ月ごとに打合せを行っています。このような部門間の情報共有により、各部門の課題を明確にすると共に、情報の妥当性を検証できる仕組みができました。

また、これまで以上に営業担当者自身の情報が貴重なものと認識され、単なる「売り子」ではなく、お客さま満足を追及する意識を持ちながら営業を実践できるようになりました。

この様な取り組みの中から生み出された新製品がまもなく市場に投入されます。これを励みにお客さま満足度で世界No.1をめざします。

(シチズンマシナリー)

情報・電子機器事業での取り組み

お客さまに満足をいただくために、①お客さまとの絆を大切に、②お客さまの声を生かし、③お客さまへの責任を果たしています。

健康で実り多き人生をエンジョイしていただくための健康機器や学生から新社会人また高齢者まで幅広い層に利用していただくための電卓・電子辞書を通して、お客さまとは一時的な関係ではなく、常に期待以上の満足をめざし信頼していただける“きずな”を築いて行きたいと願っています。

消費者センターを初めとする様々なコミュニケーションやアフターケアを通じてご意見やご要望をお聞きし今後の開発やサービスに反映しお客さまの声を生かしていきます。

また、お客さまからのご相談・ご要望に迅速に対応し、「困った」を「相談してよかった」に変える消費者センターを設置しています。お客さまの貴重な声を「叱咤激励」と捉え、故障した時や、不便を感じた時に気軽に



相談できる様々なメンテナンスサポート体制を構築しています。

(シチズン・システムズ)

展示会

営業とクレーム



国内時計事業部
東京営業部量販店課
課長 小野 孝之

営業の第一線にあっても、数字だけを追うような売り上げ至上主義にならないよう自らに言い聞かせています。あくまでも、シチズンの時計を購入していただくお客さまの満足度が大事。各工程を数値などにより徹底して品質管理する「シチズンの基準」

だけでなく、お客さまそれぞれの「満足の基準」を満たしていくことがポイントだと考えています。そのために、豊富な商品知識はもちろん、クレーム処理にも逃げない姿勢を貫いて対応しています。シチズングループとしてCSRに本格的に取り組むようになってから特に、営業の各現場においても、お客さまへの責任感、シチズンというブランドの信頼性などをさらに強く意識するようになってい実感しています。私たちが扱っているのは単なる時計ではなく、シチズンという信頼……これが営業の誇りともいえます。

株主

企業として透明性を重視し、株主への情報開示やコミュニケーションに積極的に取り組むと共に、企業価値を高める努力を行い、企業責任を果たしていきます。

株主に対する責任

時代の変化と共に、従来に比べて個人投資家の増加が見られ、株主構成の多様化が進んでいます。こうした流れに対応し、シチズングループでは、企業の透明性をより高めることに重点をおき、株主への情報開示に積極的に取り組んでいます。地道なIR活動が、株主構成の裾野を広げ、企業価値に見合った株価の形成を果たすことにつながると考えています。しかしながら、株価だけに焦点をあてるのではなく、取引先、従業員、お客さま、地域社会などを大切にする企業のあり方が結局は株主への企業責任を果たすという姿勢を持ち続けていきます。

情報開示方針

シチズングループは、常に「信頼性の高い情報発信」を行えるよう、ネガティブ情報も含めた情報を、即時自主的に開示しています。また、「双方向活動」、つまり株主・投資家の皆さまの情報ニーズの把握と対話を重視します。これらはすべて、シチズングループを適正に評価頂くために不可欠な要素であると考え、開示体制の整備とグループ情報開示方針の統一を図ります。

IR活動

シチズングループではIR活動の一環として、年4回の決算発表と決算説明会を初め、海外への投資家訪問も含めた国内外機関投資家との個別ミーティングや工場見学会、個人投資家向けイベントへの参加など、シチズングループと株主・投資家の皆さまとのコミュニケーションの場を広く提供しています。今後ともシチズングループへの理解と企業価値の向上に繋げられるよう、株主・投資家の皆さまのニーズに合った適正かつ公平な情報開示を継続的に実施していきます。

開かれた株主総会

シチズングループでは、毎年6月に定時株主総会を開催しています。ご質問やご意見に対しては、議長である社長や担当取締役が直接回答を行い、活発な意見交換がなされます。

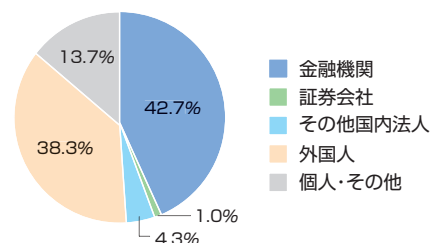
2005年度は総会終了後、参加された皆さまがよりシチズンに親しんで頂けるよう、時計資料室や組立ライン

の見学会を開催しました。2006年度の総会は、さらに多くの皆さまに足を運んで頂けるよう集中日を避け開催します。今後も皆さまに信頼されるグループとなるよう、さらなる株主総会の活性化に努めていきます。

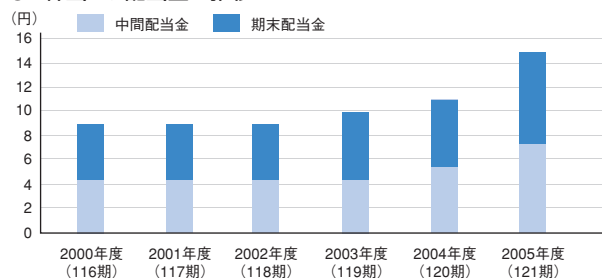
利益還元方針

シチズン時計では、これまで業績に連動した適切な株主利益配当をこころがけてきました。2005年度からはさらなる株主価値向上に向けて、利益配分に関する基本方針を見直し、配当及び自己株式取得の合計額の連結当期純利益に対する比率を「株主還元性向」と捉え、3年間で5年間の比率を30%以上とすることにしました。これを受けて、従来11円だった配当を2005年度は15円にしています。

●所有者別株式分布(2006年3月31日現在)



●1株当たり配当金の推移



www.citizen.co.jp/ir/
IR情報

SRIファンドへの組み込み

シチズン時計は、ベルギーのSRI(社会責任投資)評価機関エティベル社よりCSRに積極的に取り組んでいる企業として「エティベル投資ユニバース」に選ばれています。



お取引先

ともに顧客満足を創造し、共存共栄のよりよいビジネスを行っていく信頼のパートナーシップをCSR活動にも生かしていきます。

調達基本方針

シチズンは、ビジネスパートナーであるお取引先と共に発展・成長していくことをめざしています。お取引先からの資材・サービスの調達にあたっては、法令の遵守や人権尊重、環境への積極的な取り組みに加え、お取引先との公正かつ透明な取引と相互信頼に基づいたパートナーとしての関係づくりを進めていきます。

公正な取引

お取引先選定の基本方針

シチズン時計では、新たなお取引先の選定にあたり、内外のお取引先に対し広く門戸を開き、以下の選定条件について総合的に判断して選定するとともに、公平、公正な取引の維持に努めます。

調達先選定基本条件

1. 品質、価格、納期が適正水準であること
2. 安定供給と需要変動への対応力があること
3. シチズン製品の競争力向上に貢献できる技術力を有すること
4. 経営状態が健全であること
5. 法令・社会規範を遵守し、人権の擁護を支持し尊重していること
6. 環境への取り組みが積極的であること

グループ下請取引適正化委員会の活動

シチズングループでは、グループの下請け取引の適正化を図るため、「シチズングループ下請取引適正化委員会」を設置して、下請法の遵守活動を推進しています。

この委員会では、グループ会社に対する下請法の教育と業務改善指導を行うと共に、各社への内部監査を実施することにより、下請け取引の状況を監視し、不適切な事項が発見された場合には速やかな改善につながる体制を整備しています。



下請法教育

お取引先苦情相談室

シチズン時計では、お取引先が不当な扱いを受けることの無いよう、細心の注意を払って調達活動を行っていますが、万が一お取引先がお困りになった場合に備え、「お取引先苦情相談室」を設けています。

●お取引先ホットライン

- ・住所 東京都西東京市田無町6-1-12
シチズン時計
「お取引先苦情相談室」
- ・専用電話 042-466-0837
- ・専用FAX 042-466-0837
- ・専用e-mailアドレス tori-kujo@citizen.co.jp

良きビジネスパートナーとして

ビジネスパートナーであるお取引先とシチズンが共に発展・成長し、Win-Winの関係を維持・強化することをめざし、お取引先との情報共有化を積極的に進めたいと考えています。具体的には、お取引先の講師を招いた社内セミナーの開催、新規お取引先への訪問による状況把握、シチズン製品を展示してお取引先からの提案を受ける「逆見本市」への出展などを通じて、お取引先とシチズン相互の情報交流を図っています。



逆見本市（深圳）

CSR調達

シチズンは、企業としての社会的責任を果たすため、法令の遵守や環境・人権への配慮に取り組んでいただけるお取引先と積極的にパートナーシップを構築したいと考えています。そのために、お取引先のCSRに対する取り組み状況を選定要素に盛り込み、今後お取引先を選定する際のファクターとさせていただきます。

従業員

シチズンでは、経営方針に「従業員一人ひとりが自分の良さを出し合い、協力し合って伸びていく風土づくり」をあげています。人間を尊重し、その多様性を認め、また安心して快適に働ける環境づくりをすることが企業の責務であると考えています。

ダイバーシティへの取り組み

女性の活用

シチズン時計では2004年末、人事部内に女性だけのプロジェクトチームを発足させ、人事部と女性社員の両方の立場から女性従業員の活用について考えています。2005年度は女性従業員対象の意識調査を実施し、女性向け各種オープンカレッジの開催や役員・部長クラスを対象に社外の講師を招いて「ダイバーシティセミナー」を開催しました。また、インターネットを使った育児休職者復帰支援プログラムを導入、ワーキングウーマン応援イントラサイトもオープンし、全社的な風土づくりに取り組んでいます。

障がい者雇用

シチズン時計では「共に働く」を基本方針に、特例子会社は設けずに法定雇用率を達成しています。2005年度は知的障がい者の新規採用を含む、雇用範囲自体の拡大に努め本社部門、営業部門への新規採用者の配属による受け入れ職場の拡大を行いました。

高齢者継続雇用

2006年4月施行の「改正高年齢者雇用安定法」に対応するために、グループ全体で取り組み、シチズン時計では2006年4月より、一定の基準のもと継続雇用希望者をできるだけ多く雇用する「エルダーパートナー制度」を導入しました。初年度継続雇用予定者は対象者54人中50人です。

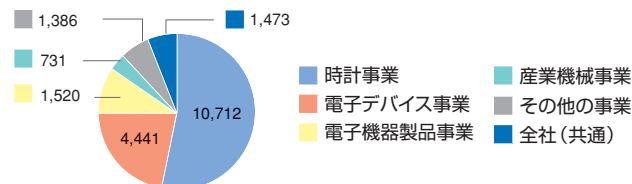
採用計画

会社の活力を維持していくためには、長期的視野に立って新卒者を定期的・安定的に最適人数を採用していく事が不可欠と考えています。しかしながら、この変化の時代にじっくりと育てていくだけでは競争に勝ち残れません。シチズン時計では通年採用により中途採用と新卒採用を併用し、バランスをとりながら戦力の強化に努めています。

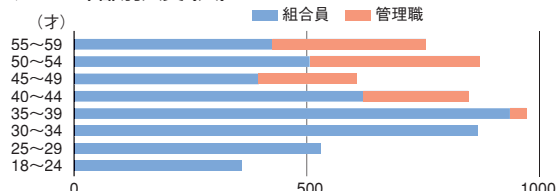


www.citizen.co.jp/recruit/
採用情報

●グループ事業セグメント別人員(人)



●グループ年齢別人員(人)



●雇用に関する情報(シチズン時計)

正社員(人)	男	1,281	平均年齢(才)	男	45.6
	女	208		女	41.7
	計	1,489		平均	45.1
管理職数(人)	男	412	平均勤続年数(年)	男	23.3
	女	3		女	21.0
	計	415		平均	23.0
離職率(2005年度)				2.38%	
障がい者雇用率				2.14%	

2006年4月1日現在

イベント

毎年夏にシチズン時計の東村山グラウンドにおいて、従業員及びその家族、近隣の住民を招いて「納涼フェスティバル」を開催しています。2005年も3,000人を越す来場者で賑わいました。また、2005年から「シチズンカップ・スポーツ大会」を新たに開催し、グループ各社から選手が集まり5競技に分かれて熱戦を繰り広げ、グループ間の交流を深めました。



シチズンカップ・スポーツ大会

インナーコミュニケーション

シチズン時計の社内報「シチズンライフ」は、1956年の創刊以来、毎月休むことなく2005年12月に600号を発行しました。現在はOBの方も含め約4,500冊を毎月配布しています。また、

2005年10月よりグループ誌として季刊の「シチズンフューチャー」を創刊しました。こちらは国内グループ社員全員に配布をしており、グループコミュニケーションを高める役割を果たしています。

従業員の一人ひとりが常に目的意識を持って行動し、生き生きと仕事ができる仕組みづくりに取り組んでいます。

人材の育成とワーク/ライフ・バランス

教育体系

シチズン時計では、2002年より新たな教育体系として「シチズン・カレッジ」を構築してきており、それをベースに2005年度から新たにグループ向けの教育体系として「シチズン・ユニバーシティ」の構築にも取り組み始めました。各社独自のカリキュラム、相互利用カリキュラム、共通カリキュラムを選定し、グループとしての教育体系に仕上げていきます。

人材データベース

グループ人材活用のインフラとして「グループ人材流動化ガイドライン」を作成すると共に、基本データの他に各人の職務履歴などを入れた「グループ人材データベース」の作成も行っており、今後活用していく予定です。

退職金・年金制度

2006年1月から、シチズン時計では従来より運用していた「適格年金制度」を廃止して、ライフプランの多様化や人材流動化に向けて「連合型確定拠出年金」へ移行しました。今後グループ各社が順次参加していく予定です。

ワーク/ライフ・バランスの実現

子育て支援に関しては、次のような制度整備を行っています。

育児休業制度

両親同時での休業、育児参加が可能

就業時間の短縮制度

小学校就学始期までの短時間勤務（1日2時間以内の短縮）が可能

育児のための休暇

失効年休（プール休暇＝有給）を利用した育児休業に準ずる休暇取得が可能

子の看護休暇

中学校就学前までの子を対象に法定休暇（年5日）に加え、失効年休（プール休暇＝有給）を利用した休暇（年10日）の取得が可能

育児のための年次有給休暇の有効利用

分割付与対象日数（半日休暇）の拡充

●育児（介護）休暇取得者数

2003-2005年度の育児休暇利用者数（人）	男	0
	女	20
	計	20
2003-2005年度の介護休暇取得数（人）	男	0
	女	0
	計	0

人権の尊重

シチズングループは、人間を尊重し、多様性と創造性にあふれる組織づくりをめざしています。2005年国連の「グローバル・コンパクト」にも参加し、法令順守はもとより、基本的人権を尊重し、差別的処遇などを行わないこととしています。各国・各地域で事業活動を行う際、これらを最も基本的な要件としており、グローバルに教育・啓発活動を行い、人権尊重意識の浸透を図っています。

健全な労使関係の構築

シチズンでは、1社1労組を原則に従業員を代表する労働組合と経営施策や労働条件について定期的に交渉・協議などを行っており、安定した労使関係にあります。また、海外のグループ会社においては、各国の法令などにに基づき、各グループ会社が労働組合や従業員代表と話し合いを行っています。

人事面からのリスクマネジメント

海外安全

海外安全に関しては人事部が窓口となり、適宜現地調査の実施や海外安全通信の定期発行により危険情報の提供を行うと共に、外部機関によるセミナーやコンサルティングの実施による啓発活動も併せて行っています。

労働安全衛生

メンタルヘルス

「メンタルヘルスの基礎知識」（マニュアル）の発行、ストレス度チェックの実施、役職者向けなどの研修会（健康落語会）開催や外部電話相談との提携により、メンタルヘルスに対する理解が深まってきました。今後は各個人・職場への展開をさらにサポート・推進していきます。



健康落語

安全衛生管理活動

シチズン時計の3事業所（東京・所沢・中野）での安全衛生管理活動は従業員をケガと病気から守るために、安全衛生委員会の開催・職場パトロール・安全衛生教育・設備安全審査・社内イントラネットを用いた広報活動などを行っています。



地震体験

地域社会

地域社会でのステークホルダーとの関わりやコミュニケーションは、シチズン（＝市民）の名を掲げる誇りと責任であり、かけがえのない財産。これからも日々、着実に積み上げていきたいと考えています。

シチズン企業行動憲章の第5条にて、社会貢献活動に取り組む基本方針を定めています。その上に立って、これまでシチズンらしい社会貢献のあり方、シチズンの従業員の顔が見える社会貢献のあり方をさらに模索してきました。

シチズン時計では、2005年11月、社会貢献活動の指

針や社会貢献活動参加の原則などを策定しました。さらに、2006年1月に、総務部内に「社会貢献グループ」を専任部署として設立しました。これにより、従業員個人が参加する社会貢献活動を積極的にサポートしていきます。

社会貢献活動に関する基本方針

「良き企業市民として、地域社会との共生を大切にし、社会貢献活動に努めます」

- (1) 社会の一員として、社会に役立つ事業活動を行い、社会とともに歩む“良き企業市民”としての役割を果たしていきます。
- (2) 地域社会とのつながりを大切にします。各地域の行事にも積極的に参加し、地域の方々との交流を通して、地域の活性化に協力していきます。
- (3) 社会貢献活動を通して、社会との関係を一段と深めることにより、社内に柔軟かつ創造的な文化が醸成されることを目指します。

社会貢献活動の指針

- ① 私たち自らが社会の様々な課題に気づき、それらの課題に自発的に取り組んで行きます。
- ② 当社の持っている様々な人的・物的な資源を有効に活用することによって、シチズンらしい社会貢献活動を目指します。
- ③ シチズンに働く従業員の顔が見え、その活動に自ら汗をかく従業員の姿が求められます。

（2005年11月策定）

シチズン・オブ・ザ・イヤー

シチズン・オブ・ザ・イヤーは市民に感動を与えた人、市民社会の発展や幸せ・魅力づくりに貢献した市民を毎年選び、顕彰する制度です。市民主役の時代といわれる中、広い視野から市民を顕彰する賞として、社名に「CITIZEN（市民）」を掲げるシチズン時計が、1990年に創設したものです。

16回目となる2005年度の受賞者は、以下の方々です。

- ① 堀田健一さん（東京都足立区）
障がい者一人ひとりのニーズに合わせた
特殊自転車づくり26年
- ② 吉野健次郎・勝 親子（大阪府泉佐野市）
親子三代で地域のお年寄りに眼鏡を贈り続けて3,000個
- ③ 日本スピンドル製造株式会社 社員一同（兵庫県尼崎市）
JR脱線事故直後、操業を停止して現場で救出に当たった
社長、従業員



シチズン・オブ・ザ・イヤー表彰式



www.citizen.co.jp/social/coy/
シチズン・オブ・ザ・イヤー

マラソン・駅伝

時計メーカーとして信頼あるタイム測定技術を活用しマラソンや駅伝大会の公式計時協賛を行っています。

最近では、急速に普及している無線ICチップの技術が活用されています。参加選手の胸ゼッケンに貼り付けたICチップを自動測定装置で感知し、タイム記録を即時にインターネットを通じてテレビ局に送信し実況中継に生かされています。



自動測定システム

障がい児童スポーツ CLC CITIZEN LATINAMERICA CORP.

18歳以下の障がい児童にスポーツ支援を行っているNPO (Olimpiados Especiales Panama) と協働で、ハンディーキャップのある子どもたちを支援しています。寄付や時計の寄贈を初め、シチズンのロゴ入りのTシャツをつくり、イベントの参加者に着ていただいたり、希望者に販売し、その収益を障がい者のサポートに役立てています。



Tシャツ寄贈

若者へ働く喜びを シチズン電子

近年、ニート・フリーターの増加が社会問題化しています。シチズン電子では、若者が早い段階から職業に興味を持ち、自主的に職業選択できるよう、ハローワークや山梨県経営者協会主催の様々な講習会などに講師として参加しています。中学生の道徳学習の時間に講義をしたり、ニート・フリーター向けに講義や工場見学、職場体験を実施しています。



中学生の工場見学

伝統ある卓球部と地域のコミュニケーション

シチズン時計の卓球部は、伝統ある部であり、国内外で活躍しています。地域での卓球教室も7年目を迎え2005年度も174名の参加がありました。選手たちは、地元のラジオ局FM西東京にも出演しており、卓球の幅広い活動を通して地域社会とのコミュニケーションを育んでいます。



西東京市卓球教室

パキスタン地震援助 CIN CITIZEN WATCHES (INDIA) PVT. LTD.

2005年10月に発生したパキスタン地震への支援として現地赤十字(赤月社)を通じ、パキスタン側にテントを800張り、インド側に200張り(総額10万米ドル相当)を送りました。本格的な冬を迎える前にタイミングよく防水性に優れたテントを送ることができ、このテントにより10,000人以上の被災者を救えると感謝されました。



赤十字へテント寄贈

その他の社会貢献活動

●環境・生態系活動

富士山クリーン作戦 (1999年～)	シチズン電子
富士河口湖町クリーンアップキャンペーン	シチズンセイミツ
天竜川水系環境ビュッック (1994年～)	シチズン平和時計
御代田地区3社合同清掃活動 (2003年～)	シチズンミヨタ、シチズンファインテック、シチズンマシナリー3社合同
100万本植樹運動 (2000年～)	シチズン電子
フラワーロードづくり (1999年～)	シチズンミヨタ
東御市 蝶の保護活動 (2003年～)	シチズンミヨタ
天竜川水系健康診断 (1997年～)	シチズン平和時計

●教育・社会教育

飯田養護学校での技術指導 (2002年～)	シチズン平和時計
子ども科学工作教室 (1988年～)	シチズン平和時計

●災害援助

米国ハリケーンカトリーナ被災支援	シチズン時計、CITIZEN WATCH CO. OF AMERICA, INC.
中国梧州市水害支援	シチズン時計、シチズンミヨタ

●寄付・寄贈

JEWELERS FOR CHILDRENへの寄付	CITIZEN WATCH CO. OF AMERICA, INC.
孤児基金・小児がん基金へ寄付・寄贈	CITIZEN DE MEXICO S.A. DE C.V.



www.citizen.co.jp/social/group
シチズングループの社会貢献活動

環境マネジメント

シチズンは、グループ横断の環境管理体制を築き、効率的な環境への取り組みを強化し、グループ全体での最適化をめざしていきます。

シチズンの環境マネジメント

シチズンは環境管理活動を効率的かつ的確に実行するため、グループ各社と年2回、環境管理事務局会議を行っています。

会議では、年度の環境経営方針、課題の検討及び決定、各社の活動状況の把握などを行い、また専門分野テーマごとにグループ横断の分科会を設置して、環境活動が効率的に行われるよう進めています。

シチズン時計は、グループ経営の本社機能としての役割を果たし、グループ全体の最適化をめざしています。特に環境配慮型製品づくり、化学物質管理やごみゼロの達成などに重点を置き取り組んでいます。

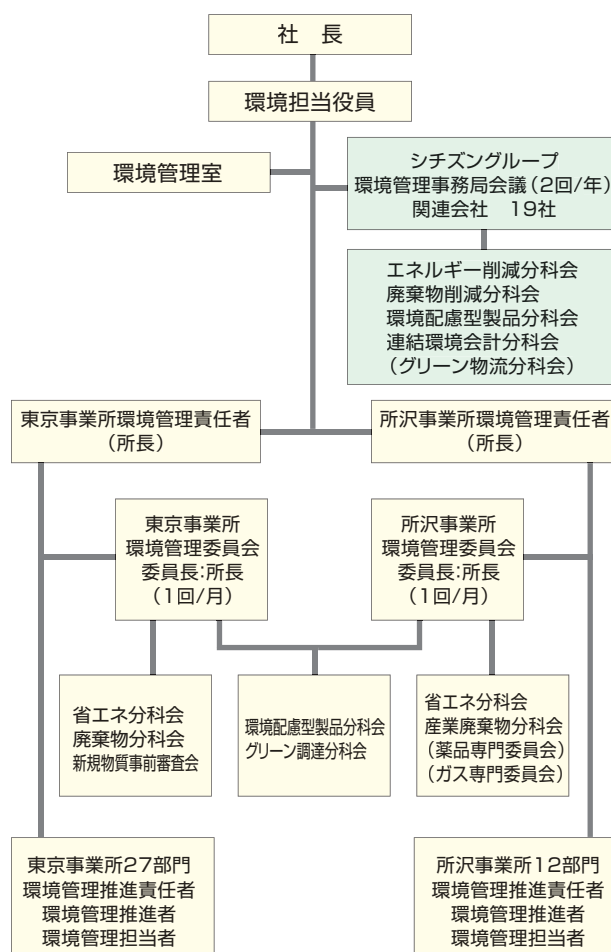
グローバル環境マネジメント

海外拠点の環境管理活動を進める上で、まず環境管理体制の構築が必要です。

生産拠点に対しては、ISO14001環境マネジメントシステムを構築することにより管理体制を整え、それぞれの地域に適した環境活動を展開することをめざし、順次認証を取得しています。2005年度は海外では4拠点（CMB、MCL、MAL、RTC）、国内では2拠点（シチズンタ張、シチズンセイミツ鹿児島）が認証取得を行いました。

生産拠点として環境配慮型製品づくりの一翼を担っているためグリーン調達や化学物質管理に取り組んでおり、生産工程では有機塩素系溶剤や代替フロンなどの洗浄剤の廃止を進めています。

●環境管理組織体制



環境方針

基本方針

シチズンは「市民に愛され親しまれるモノづくり」という理念に基づき、地球環境と調和した永続的な企業活動を通して、人々が心豊かに安心して暮らせる持続可能な市民社会に貢献します。

環境行動指針

1. 時計、産業用機械、情報・電子機器ならびにその部品等の研究・開発・設計・調達・製造・販売の事業活動を進める上で、資源の有効利用と地球環境保全に努め、環境配慮型製品およびサービスを提供します。
2. 環境に関わる法令、規制、協定を遵守し、さらに積極的な環境負荷削減の取り組みと汚染の防止に努めます。
3. 省資源・省エネルギー・ごみゼロに取り組むことにより環境保全効果と経済効果を生みだし、永続的な事業活動を進めます。
4. 環境目的、環境目標を定め、またその見直しを図り、継続的改善に努めます。
5. この環境方針は文書により全従業員および共に働く人々に周知を図ります。
6. この環境方針はホームページ、環境報告書等に掲載することにより、一般の人が入手できるようにします。

1998年12月8日策定 2005年3月15日改訂



www.citizen.co.jp/social/kankyo/iso
シチズングループのISO14001認証取得状況

リスクマネジメント

シアン流出事故

2005年9月27日夕方、シチズンセイミツにおいて、メッキ作業所内の薬液槽で薬液交換のため濃シアンの排水を廃液処理施設に流す際、何らかの衝撃力がかかり配管が脱落、翌日の早朝にかけて、環境基準を超える濃度のシアン排水が河川に流出しました。担当者は事故対応に追われ、結果的に上司への報告が遅れました。3日後に報告を受けた社長は、早急に監督官庁に事故報告するよう指示しました。現地調査では河川への大きな影響は見受けられず、幸い大事には至らなかったのですが、始末書及び、事故報告書の提出の指示を受けました。

改善対策として流入ピットにシアン濃度計を設置し、また回収槽を設置するなどの排水処理施設の改良を行うと共に、管理体制の見直しを行いました。

一步間違えば近隣地域を含めて大きな被害が考えられるため、これをシチズングループ全体の尊い教訓として受け止め、生産拠点に水平展開し、グループとして緊急事態への準備体制を見直し改善しました。

御代田地区土壌汚染対策

御代田地区3社（シチズンミヨタ、シチズンファインテック、シチズンマシナリー）では環境管理活動の一環として自主的に土壌、地下水の調査を行いました。その結果、敷地内の一部の土壌及び地下水に環境基準を超える揮発

性有機化合物*およびフッ素があることがわかりました。原因としては、以前生産工程で使用していた揮発性有機化合物等が土壌に飛散、漏洩したものと思われます。御代田地区3社はこの結果を行政機関（県および町）に報告するとともに、地域の方々に対する報告ならびに住民説明会の開催を行いました。現在は、行政の指導を仰ぎながら浄化を実施しています。

* テトラクロロエチレン、トリクロロエチレン、シス-1,2-ジクロロエチレン

環境教育

シチズン時計では従業員全員が環境活動の重要性を認識するために様々な教育を実施しています。

会社としての教育体系に基づく新入社員教育、管理職昇格者研修やミドルマネジメント研修の中で環境管理に関する教育を行っています。

また環境管理室が計画する各部門の環境実務担当者への教育やISO14001の内部監査員養成教育などが毎年行われています。

さらに毒劇物や危険物を扱う部門が行う、緊急事態を想定した訓練も各部門の特色を表したものとなっています。

また社内の「ビジネスライセンス制度」も公害防止管理者、エネルギー管理士など環境関係の公的資格の取得をバックアップするものとして活用されています。

CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD. (CSHK、香港/中国) の環境活動

CSHKの環境活動は2002年頃から積極的に展開してきました。例えばトリクロロエチレンの使用全廃に伴う炭化水素系洗浄装置の導入、鉛入りはんだから無鉛はんだへの切り替え、廃棄物の分別回収など、中国華南地域においては比較的早い時期から環境活動に取り組んだ工場であると思います。取引先のグリーンパートナー取得（2003年）、ISO14001認証取得（2003年）などそれぞれのポイント時期において、環境活動をステップアップしてきました。当初は自社工場のみの活動でしたが、徐々に中国国内の取引先までに活動を広げ、いわゆるグリーン調達活動に昇華させていきました。その中で、従来は外部委託して

いたRoHS管理物質の分析を自分たちで実施しようという機運が高まり、蛍光X線分析装置を導入し、自社で分析できるようになりました。今後は社員全員の環境意識を高めるための教育に力を入れるとともに、地域の環境改善に対する取り組み活動も行っていく予定です。



炭化水素系洗浄装置

環境中長期計画

シチズン時計は、シチズン環境社会ビジョン（2025）を実現するために、環境長期計画2010年度を制定すると共に、年度目標を定めて、環境管理活動に取り組んでいます。

環境長期計画2010年度

●環境経営*の推進

- 1) グローバルな環境法規制及び潮流への積極的対応
- 2) ステークホルダーとのコミュニケーション及び経営への反映
- 3) 環境経営のグループ会社への展開
- 4) 部門評価に環境対応努力と実績を反映

●環境配慮型製品の推進

- 1) 製品の環境負荷低減
 - ① 企画・開発時での配慮
 - ・製品の小型化の促進
 - ・部品の共通化、素材の統一化の強化
 - ・長寿命製品の開発
 - ・LCA*の活用
 - ② 製品使用時での配慮
 - ・省エネルギー製品開発の促進
 - ・電池交換不要の携帯製品開発の強化
 - ③ 廃棄時での配慮
 - ・製品回収・再資源化の推進
 - ④ 梱包での配慮
 - ・梱包材料のリユースへの取り組み
 - ・梱包材料のマテリアル・リサイクル*への取り組み
 - ・梱包材料の減量化
- 2) 製品の環境負荷情報の公表

●工場における環境配慮の推進

- 1) 資源の有効活用
 - ① 資源の効率活用
 - ② 廃棄物ゼロエミッションの促進
 - ③ 化学物質排出量の削減強化
- 2) 地球温暖化ガスの削減
 - ① CO₂排出量の削減（2000年度基準で－20%）
 - ② エネルギーシステムの高効率化
- 3) サプライチェーン・マネジメント*の強化
 - ① 環境・社会性を含めたサプライチェーン・マネジメントの構築
- 4) 環境技術の開発
 - ① グローバルな環境規制に対応する最先端技術の開発
- 5) エコ・オフィスの実現
 - ① 緑地の拡大
 - ② 水資源の節約

●エコライフスタイルの啓発・推進（持続可能な社会への寄与）

- 1) 環境配慮型製品の普及・広報
- 2) 人材育成
 - ① 社員教育体制の整備
- 3) 地域社会とのコミュニケーション
 - ① 行政・地域社会とのコミュニケーションの推進
 - ② 地域イベントへの社員参加の促進

2004年7月20日策定

*環境経営

：環境面の課題を経営の重要課題と位置づけている企業経営。

*LCA

：Life Cycle Assessmentの略。製品にかかわる資源の採取から製造、流通、使用、リサイクル、廃棄に至るすべてのライフサイクルを通じて投入した資源・エネルギーと排出された物質の量を計量し、環境に与える影響を定量的に評価する手法。

*マテリアル・リサイクル

：廃棄物を製品の原料として再利用すること。それに伴い、リサイクルしやすい製品づくりが求められる。

*サプライチェーン・マネジメント

：取引先との受発注や社内部門の業務を統合管理する経営手法。資材や製品のコスト、納期などの最適管理を目的とする。最近では、取引先にCSRを求める動きが現れている。

2005年度環境目標・実績と2006年度環境目標



	2005年度目標	2005年度実績 (1999年度比)	評価	2006年度目標	参照
1	環境配慮型製品の充実			環境配慮型製品の充実	
	新規環境配慮型製品率 50% *1	時計:82%(193モデル:国内のみ集計) 電子機器:20%(1モデル) 液晶デバイス:27%(6モデル) *2	☹️	新規環境配慮型製品率 60% *2 (2008年度 100%)	31
	シチズンエコラベルの運用	シンボルマークの商標登録済み	😊		
	LCAの製品アセスメントへの導入	LCAの基礎技術開発は完了 アセスメントへの導入は未実施 *3	☹️	LCAの活用	
	環境負荷情報の開示	時計のLCAのデータの開示	😊	環境負荷情報の開示	
2	グリーン調達の実現			グリーン調達の実現	
	グリーン調達システムの運用	2事業部で運用実施	😊	調達先評価の実施(資材部)	32
	取引先評価ランクの向上	Dランクの全廃達成	😊	調達品に含まれる化学物質の検証	
	RoHS対象物質の全廃	一部未達成製品あり	😊		
	調達品の検証方法の確立	検証方法の確立に取掛かるが未達成 *4	☹️		
3	環境にやさしい事業活動:各部門1テーマ以上実施	(東京:27部門)74テーマ実施 (所沢:12部門)28テーマ実施	😊	環境にやさしい事業活動:各部門1テーマ以上実施	25, 26
4	地球温暖化ガスの削減			地球温暖化ガスの削減	
	1)省エネ活動の推進			1)省エネ活動によるCO ₂ 削減	
	(東京)電力量削減 1999年度比▲40%	▲42%(2,630万kWh)	😊	(東京)CO ₂ 削減1999年度比▲38%(14,654t-CO ₂)	33
	(東京)ガス量削減 1999年度比▲28%	▲33%(2,087千m ³)	😊		
	(所沢)CO ₂ (電力+ガス)削減 1999年度比▲17%	▲18%(9,906t-CO ₂)	😊	(所沢:新棟稼動後に設定)	
	(グループ)CO ₂ 排出量削減 2004年度比▲1.5%	▲0.5%(116,921t-CO ₂) *5	☹️	(グループ)2005年度比▲1%(売上高原単位)	
	2)物流の効率化によるCO ₂ の削減:目標設定	目標設定完了	😊	2)物流の効率化によるCO ₂ 削減 (グループ)▲6%(2008/2005年度比)	
5	廃棄物削減活動の推進			廃棄物削減活動の推進	
	(東京)産業廃棄物の削減 維持管理	▲66%(186t)	😊	(東京:産業廃棄物の削減 維持管理)	34
	(所沢)産業廃棄物の削減 維持管理	▲67%(57t)	😊	(所沢:産業廃棄物の削減 維持管理)	
	(グループ)排出物量 2004年度比▲2%	▲0.3%(7,372t) *5	☹️	(グループ)排出物量 2005年度比▲1%(売上高原単位)	
	(グループ)再資源化率 89%	89%	😊	(グループ)再資源化率 90%	
6	化学物質の削減			化学物質の削減	
	(グループ)RoHS6物質 全廃(2005年12月)	一部製品で未達成 *6	☹️	[グループ:RoHS6物質 全廃の確認]	32, 35
	(グループ)塩素系有機溶剤&代替フロン 全廃(2005年12月)	一部拠点で未達成 *7	☹️	[グループ:塩素系有機溶剤&代替フロン 全廃の確認]	

*1:自主開発・設計する製品を対象(顧客仕様製品などは除く)とする。

*2:時計に関しては2005年度は国内モデルのみを集計、電子機器と液晶デバイスは導入の遅れがあったが、2006年度に挽回予定。

*3:LCA技術の精度確保に取り組み中。今後アセスメントに導入することを検討。

*4:確立までは至らず、2006年度中に確立予定。

*5:絶対値目標のため生産増の影響と生産をグループ会社へ取り込んだための影響。今後原単位での管理を導入します。

*6:未達成製品で対応中(2006年3月31日現在)。

*7:未達成の海外拠点で2006年12月全廃予定。

シチズングループの環境課題と今後の方向性



環境管理室
室長 齋藤 茂

シチズングループの環境管理活動は、シチズン環境社会ビジョン(2025)に基づき、環境配慮型製品の拡充とごみゼロを主にめざしています。環境配慮型製品については、各事業部で

環境製品アセスメントが実施され、評価基準に則った製品が認定され始めてきています。

ごみゼロに関しては、ごみゼロを達成したグループ会社も3社ありますが、再資源化が難しい廃棄物もあり、再資源化ができる委託先を探すことが重要です。

他にも課題は山積ですが、グループ全体での環境負荷を最小限にし、また環境管理活動の成果を最適化していきます。

事業活動と環境負荷

シチズングループでは事業活動をライフサイクルで把握し、一歩一歩の積み重ねと継続による環境負荷の低減に努めています。

I N P U T		
総エネルギー使用量 (GJ)	国内	2,734,395
	海外	701,015
水使用量 (千m ³)	国内	1,863
	海外	535
水の循環的利用量 (千m ³)	国内	510
	海外	0
化学物質使用量 (t)	国内	845
	海外	181
容器包装材使用量 (t)	国内	617
	海外	3,736



■対象範囲について

◎国内

シチズン時計
シチズン埼玉
シチズンシービーエム
シチズン・システムズ
シチズンセイミツ
シチズンTIC
シチズン・ディスプレイズ
シチズン電子
シチズン東北
シチズンファインテック

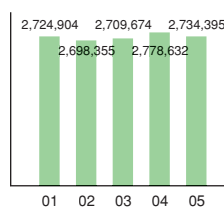
シチズンプラザ
シチズン平和時計
シチズンマシナリー
シチズンミヨタ
シチズンメカトロニクス
狭山精密工業
シチズンセイミツ鹿児島
シチズン電子船引
シチズンタ張

◎海外

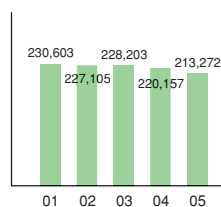
CITIZEN DE MEXICO S.A. DE C.V.
CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD. FDD PLANT
CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD. MP PLANT
CITIZEN SYSTEMS (H.K.) LTD. LCD PLANT
GUANZOU MOST CROWN ELECTRONICS LTD.
MASTER CROWN ELECTRONICS (WUZHOU) LTD.
ROYAL TIME CITI CO.,LTD.
WAH KONG PRECISION (JIANGMEN) LTD.

INPUT国内経年グラフ

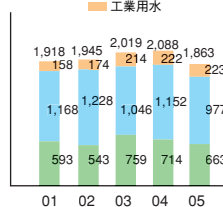
総エネルギー使用量 (GJ)



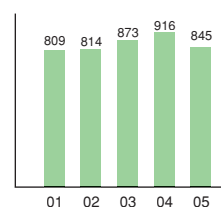
電気使用量 (MWh)



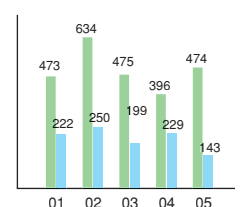
水使用量 (千m³)



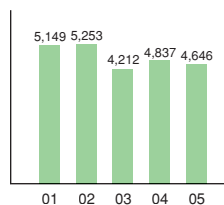
化学物質使用量 (t)



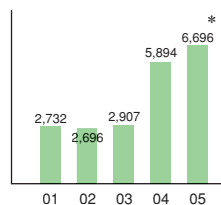
容器包装材使用量 (t)



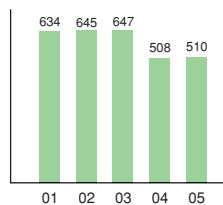
ガス使用量 (千m³)



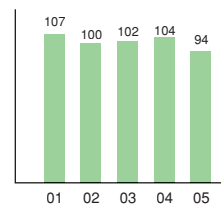
重油使用量 (kl)



水の循環的利用 (千m³)



用紙使用量 (t)



年度データは、集計の見直しを行って数値を変更しています。

*2004年度にコージェネレーション及び発電機設備導入により、重油使用量が増えた結果増加しました。今後熱利用効率を向上するための対策を強化し、エネルギー効率を改善していきます。



O U T P U T

CO ₂ 排出量 (t-CO ₂)	国内	116,921
	海外	32,610
NO _x 排出量 (t)	国内	181
	海外	4
SO _x 排出量 (t)	国内	22
	海外	4
排水量 (千m ³)	国内	1,525
	海外	365
BOD排出量 (t)	国内	26
	海外	104
COD排出量 (t)	国内	18
	海外	253
排出物量 (t)	国内	7,372
	海外	989
埋立量 (t)	国内	695
	海外	601

日本におけるシチズングループの環境負荷の位置づけ

日本国内の環境負荷量に占めるシチズン国内グループ環境負荷量の比率は下表の通りです。

	シチズングループ 国内	比率(%)
CO ₂	116,921(t-CO ₂)	0.009
NO _x	181(t)	0.021
SO _x	22(t)	0.004
産業廃棄物量	3,474(t)	0.001
産業廃棄物埋立量	669(t)	0.002

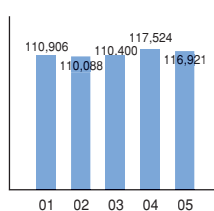
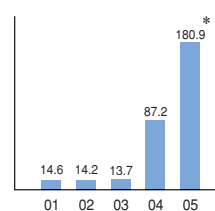
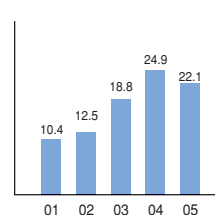
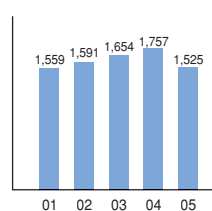
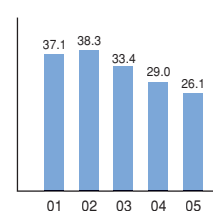
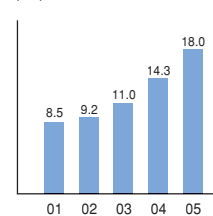
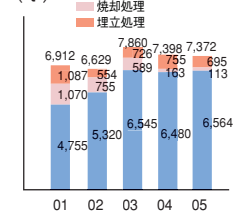
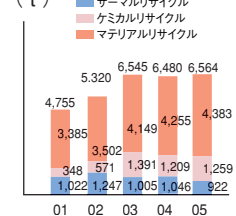
*日本国内の環境負荷は、2005年度のデータがない指標については、直近のデータを基に算出しました。



www.citizen.co.jp/social/kankyo/position
日本における環境負荷の位置づけ

環境

OUTPUT国内経年グラフ

CO₂排出量
(t-CO₂)NO_x排出量
(t)SO_x排出量
(t)排水量
(千m³)BOD排出量
(t)COD排出量
(t)排出物量
(t)再資源化物量内訳
(t)

www.citizen.co.jp/social/kankyo/group
シチズングループの環境負荷状況

製品での取り組み

シチズンは開発・設計・製造段階での有害化学物質などの環境規制の順守や環境負荷の低減ばかりでなく、製品の流通・使用から廃棄・リサイクルの各段階においても環境への影響を考慮して、環境配慮型製品の充実に取り組んでいます。

製品での環境配慮

シチズンは「市民に愛され市民に貢献する」企業理念に基づき、モノづくりで世界の人々に貢献したいと考えています。

EUのWEEE指令*¹、RoHS指令*²など製品にかかわる環境規制も厳しくなる情勢があり、これらの環境規制に対する取り組みを通して、シチズンの「モノづくり」はどうあるべきかを考えてきました。ライフサイクルを通して、環境に配慮し環境負荷を低減する取り組みが重要との認識に立ち、「環境配慮型製品」の充実に取り組んでいます。

環境製品アセスメントを実施し、「省エネルギー・省資源」「再資源化（リユース・リサイクル）」「長期使用性」「環境保全性（有害化学物質管理）」「環境情報の提供」「包装梱包材」などの評価項目の基準を満たした製品を環境配慮型製品と認定しています。シチズンでは、環境配慮型製品に独自の「シチズンエコラベル」を貼付して、商品選択の参考にしていただこうと考えています。

時計製品では、2005年9月に「女性用エコドライブ電波時計モデル」が「環境配慮型製品」の認定を受け、その後半年間で193モデルまで拡大しました。



また、シチズン・ディスプレイズでは、携帯電話用液晶モジュール（2機種）、車載用液晶セル（4機種）を、シチズン・システムズでは、3インチPOSプリンタ（1機種）を認定しました。その他、化学製品では紫外線硬化接着剤、熱硬化接着材、潤滑油の認定準備を進めています。

www.citizen.co.jp/social/kankyo/ecolabel
シチズンエコラベル基準

環境配慮型製品の目標

シチズンは2005年度には新規モデル製品のうち環境配慮型製品を50%にする目標を掲げて取り組みました。時計製品は国内分で82%となりました。海外生産分は環境配慮型製品認定システムを導入し始めましたが目標は達成できませんでした。

時計以外の製品は20%台となりました。今後は海外

生産も含めて積極的に拡充を図り2008年度には100%を目標としています

LCAへの取り組み

LCA(Life Cycle Assessment)とは、製品にかかわる資源の採取から製造、流通、使用、リサイクル、廃棄に至るまでのライフサイクルを通じて、投入した資源やエネルギーと排出された物質の量などを計上し、環境に与える影響を算出して定量的に評価する手法です。

シチズンでは、製品の企画検討、設計変更、工程改善などでLCAデータを活用し、環境負荷の把握と低減を図ることをめざしています。

体温計のLCA実施結果

シチズンで製造している製品が、環境にどのような影響を及ぼしているか調査するため、今回は3種類のユニバーサルデザイン体温計を対象としてLCAを実施しました。

グラフは各製品が製造されてから廃棄されるまでの各ステージにおいて、環境に与える負荷を地球温暖化の観点からLCAで算出したインパクトデータです。

製品の機能が向上するほど、部品点数の増加や構造の複雑化によって、環境に与える負荷が高くなる傾向にあることを定量的に把握することができました。

今後はより便利な機能と環境負荷の両立を見据えて、新製品の企画・設計と製造方法の検討をしていきます。



予測式体温計 CT786SP

先端部が柔らかく曲がり、体にやさしくフィットすると共に、約30秒の予測検温機能で検温時間を短縮します。

振動式体温計 CT785V

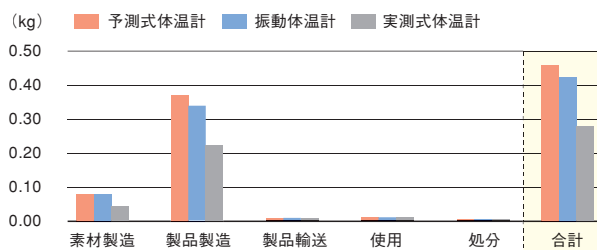
見やすい大きな液晶表示を備え、振動により検温終了をお知らせします。

実測式体温計 CT782W

つまみやすい指がかりがついたスタンダードモデルです。

●地球温暖化（CO₂換算）

※3日に1回検温し、5年間の使用を想定しました。
なお、ボタン電池を使用しています。



グリーン調達

シチズンでは、環境管理活動を積極的に行っているサプライヤーから、環境に配慮した製品、部品などを優先的に購入するグリーン調達活動を進めています。その一環として約450社のサプライヤーの理解を深め、グリーン調達を確実に対応できる体制づくりをサポートしています。現在、国内ばかりでなく中国からの調達が多くなっていることから、2004年に香港と中国の東莞においてアジア地区のサプライヤーへのグリーン調達説明会を開催しました。なおグリーン調達基準書は3か国語（日本語、英語、中国語）で作成しており、化学物質管理に対しては含有禁止物質、含有全廃物質、含有量調査物質、工程内使用全廃物質の4種に分類しています。調達品に直接含有される化学物質ばかりでなく、サプライヤーの工程で使用する化学物質についても規制しています。

サプライヤーから含有禁止物質不使用の保証や環境活動状況の調査表を提出していただき、4段階のランクづけを行っています。そしてサプライヤーの方々にランクアップのお願いとサポートをしています。

 www.citizen.co.jp/social/kankyo/green
グリーン調達

欧州環境規制への対応

RoHS規制対象物質の全廃に向けて

シチズンでは、2006年7月に施行されるEUのRoHS指令に対応するため、2005年12月末までにRoHS規制対象物質を全廃することを目標として取り組みを開始しました。さらにEU向け製品だけでなく、全ての製品に関して規制対象物質の全廃をめざしました。

時計の生産プロセスで使用するはんだについては鉛フリー化が完了し、またICチップの実装で使う鉛はんだバンプの鉛フリー代替技術も確立しました。

サプライヤーからの購入品の中には鉛などの対象物質を含むものが数多くあるため、例えば、塗料などの代替化も進めました。また購入品に禁止物質が含まれていないかを確認するため、対象物質の含有の有無を測定できる蛍光X線分析装置を国内と中国生産拠点に設置しています。

ヨーロッパ向けの製品を優先して対象6物質の含有確認や代替化を行いました。しかし、ヨーロッパ向け以外の製品では一部未達成のものがあり、継続して取り組んでいます。



蛍光X線分析装置

含有化学物質調査システム導入

調達部品に含まれる化学物質を効率よく管理するための含有化学物質調査システムを導入しました。調達から収集した含有化学物質情報を集計し、製品の構成部品単位で有害化学物質の含有状況を管理できます。また設計担当者が、化学物質含有情報を確認することで、規制物質を新たな開発品に含有しないようにします。一方製品に含まれる化学物質の含有量調査は、最終組立メーカーごとに独自の調達基準を作ることはサプライヤーが混乱する恐れがあるため、シチズンでは電気電子業界の共通ガイドラインに従った含有量調査を実施しています。

WEEE指令に対する取り組み

シチズンは、様々な製品をEU諸国へ輸出しており、EUのWEEE指令への対応を行っています。

例えばドイツでは、登録機関EARに対する製造者登録は完了し、またリサイクリング業者の選定と契約も終了しています。

今後、EU各国の登録機関への販売数量などの必要書類を提出し、相応の委託金を支払うことになります。

WEEEマーキングについても、製品に応じて銘板、保証書や取扱説明書などに記載しています。



WEEEマーキング

*1 WEEE指令:EUの廃電気電子機器リサイクル指令（EUでは、家電製品や照明器具などの電気電子機器の製造事業者は、2005年8月より廃棄物の回収・処理・リサイクル・廃棄すべての費用を負担する）

*2 RoHS指令:EUの有害物質使用制限指令（2006年7月より鉛、カドミウム、水銀、六価クロム、臭素系難燃剤（PBB、PBDE）の6種類の化学物質を含有した電気・電子機器製品の販売がEU域内で禁止される）

地球温暖化防止

シチズングループでは、全事業所でCO₂排出量削減に向けて活動しています。

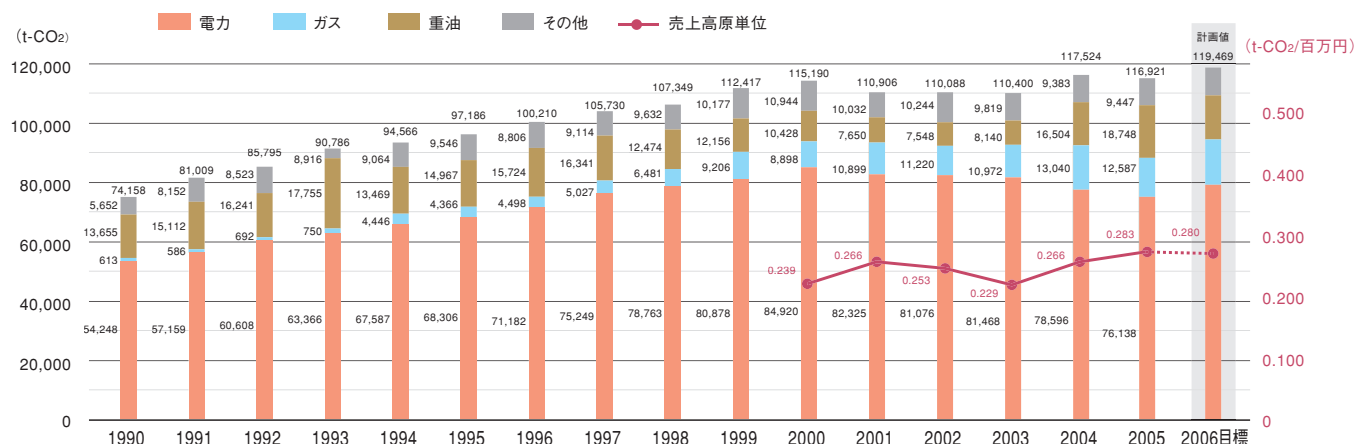
地球温暖化防止

シチズングループでは、2001年よりエネルギー削減分科会を設置し、グループ全体でエネルギー使用削減に取り組んでいます。またその中で、各事業所の事例を発表し合い、お互いに良い部分を取り入れながら進めています。2005年度は、コンプレッサーの集中化、変電所の統合、電力監視システム利用による無駄な電力の削減、廃熱の回収利用、クリーンルームの休日停止、給水ポンプ及び空調機ファンのインバータ化などを実施し

ました。

シチズングループのCO₂排出量は、前年度比1.7%削減の目標に対し0.5%の削減となりました。目標未達成の要因は、生産増と外部委託の事業を内部に取り込んだことによるエネルギー使用量の増加があげられます。2006年度は新工場の稼働などで増加の見込みですが、グループ全体で120千t-CO₂(売上高原単位▲1%)以下をめざし削減活動を続けていきます。

●シチズングループCO₂排出量の推移



コンプレッサーの集中化と台数制御

狭山精密工業では、工場内に分散してあった9台のコンプレッサーを1ヵ所に集中し6台にして、工場全体の生産工程から要求される負荷に応じ最適な運転台数の調整を行い、余分なコンプレッサーは停止させるようにしました。また、6台のうち1台はインバータ付きコンプレッサーで、常時微調整に使用することで全領域の負荷に対応しました。これにより、年間約72MWhの削減ができました。



コンプレッサー

変電所の統合と高効率トランスの採用

シチズン時計では、低負荷または高負荷のトランスに対し、各トランスの効率が高くなるように変電所を統合し、余分なトランスは廃止しました。また、更新時期のトランスに対しては、高効率(アモルファス)トランスを導入しました。これらにより、年間約128MWhの効果が出ました。



東京事業所内変電所

廃棄物削減/物流での取り組み

シチズングループでは、廃棄物を減らすことをまず優先に取り組み、廃棄するものについてはリサイクルに努めています。また、物流でも同様の取り組みをしています。

廃棄物削減

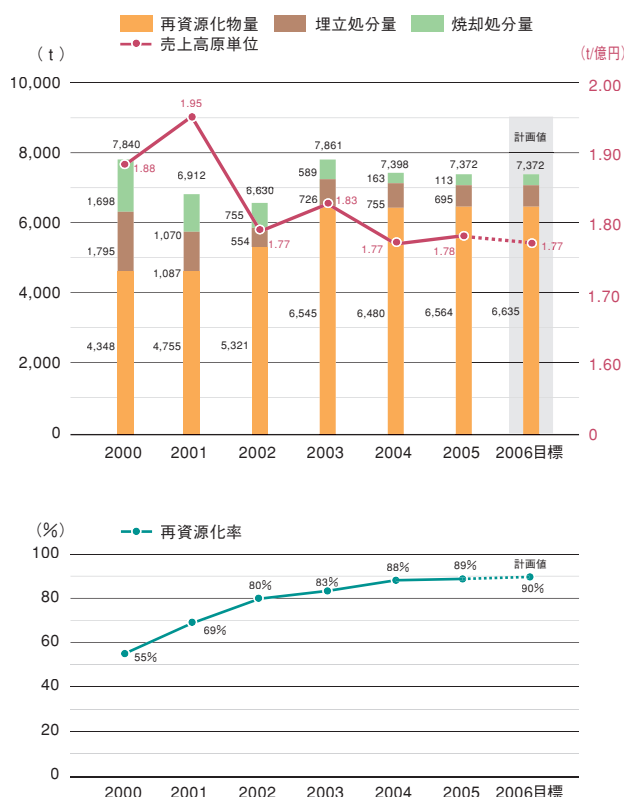
廃棄物削減に向けて

シチズングループでは、毎年2回廃棄物担当で定期的に廃棄物削減分科会を開催し、廃棄物の削減に努めています。2005年度は、廃棄物排出量2%削減を目標に活動を進めました。その結果、廃棄物排出量は0.3%減少しました。目標未達成の要因は、生産増と外部委託の事業を内部に取り込んだことによる廃棄物量の増加があげられます。2006年度はグループ全体で排出物量売上高原単位▲1%をめざして活動を続けていきます。

再資源化率向上の取り組み

2005年度は再資源化率89%を目標に活動を進めました。実績は目標と同じ89%となりました。またその中で、4事業所*がごみゼロ（再資源化率99%以上）を達成しました。2006年度は、グループ全体で再資源化率90%以上をめざして活動を続けていきます。

●シチズングループ排出物量・再資源化率の推移



*シチズン時計（東京事業所）（所沢事業所）、シチズン埼玉、シチズン東北（盛岡事業所）

汚泥減容装置の導入

シチズンファインテック

では、脱水汚泥の減量化のため汚泥減容装置を導入しました。脱水汚泥は多量の水分を含んでいますが、この水分を出来るだけ除去することで、脱水汚泥の50%以上を削減することができました。



汚泥減容装置

物流での取り組み

シチズンでは海外生産拠点との輸送において物流の合理化とともに廃棄物削減を併せて取り組んでいます。

事例 1

国内輸送の荷姿のまま海上輸送コンテナに容易に運び込めるようにカーゴ台車に荷物を積み込み、海外へ出荷しています。効果としては①コンテナへの積み込み作業にフォークリフトを使用しないことで燃料の消費に伴う二酸化炭素の発生抑制に寄与している。②耐久性のあるプラスチック製通い箱を使って部材を送品し、製品を同じ通い箱で返送することにより廃棄物を削減する、などがあげられます。



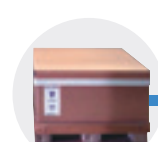
コンテナにカーゴ台車と積み込む

事例 2

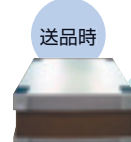
送品だけの一方通行の液晶ガラスの輸送では従来紙製ダンボール箱を使用していましたが、折りたたみが可能なプラスチック製通い箱に変更し、返却時は折りたたんで容積を減らす工夫をしています。

従来の紙製段ボール箱

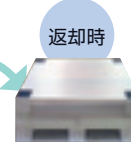
プラスチック製通い箱



1回使用後廃棄処理



送品時



返却時

折りたたんで容積を減らす

有害化学物質の削減

シチズングループの有害化学物質の取り組みは製品に含有するものばかりでなく、製造工程で使用するものを含めて、廃止または削減に向けた取り組みを行っています。またPRTR法に基づいた有害化学物質の排出量、移動量の管理を行っています。

有害化学物質の削減活動

シチズングループでは、時計部品や情報電子部品の製造工程において、加工油の除去やメッキ前の洗浄などの多くの工程で、有機塩素系溶剤、代替フロン(HCFC類)を使用していました。2003年度1年間では、国内で約300トン、海外で約800トンを使用していました。そのため2005年12月を目標に全廃活動を行ってきました。有機塩素系溶剤は漏洩により土壌汚染の原因になる恐れがあり、またHCFC類は塩素が含まれていることから大気に放出されるとオゾン層を破壊する原因の一つになります。

有機塩素系溶剤やHCFC類の代替品としては、炭化水素系溶剤や水溶性の洗浄剤、またアルコールなどがありますが、洗浄工程や対象部品に適した洗浄剤を選定し採用しています。

シチズン埼玉では、ジクロロメタンを使用して時計用の磁気回路部品を洗浄していましたが、炭化水素系の溶剤で洗浄するよう工程を変更しました。一度に2万個の部品をかごに入れて洗浄することから汚れを除去することに加え乾燥性も重要です。導入に当たっては繰り返して実験を行い対象部品に最適な溶剤を選定しました。また導入した洗浄装置には、洗浄液を繰り返して使用できるように蒸留槽を設けるなどの工夫を盛り込んで製作しました。



洗浄装置



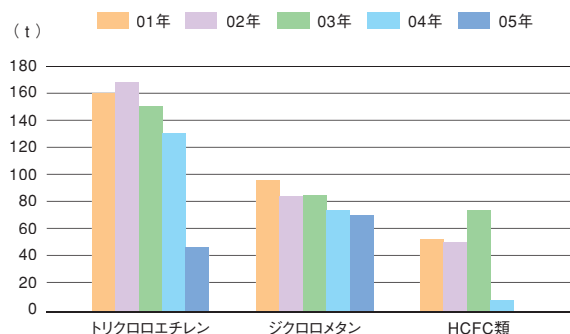
時計用磁気回路部品

国内では、時計外装部品の表面を磨く研磨工程で付着した研磨剤を除去するためにトリクロロエチレンを使用していましたが、2006年3月までに他の洗浄剤に代替を完了しました。

海外では、中国、タイ、メキシコなどの海外拠点に新たな洗浄設備を導入しました。しかし一部の拠点では導入が遅れ、2006年の夏までに完了する予定で進めています。

このような活動の結果として、3物質群の総取扱量は2003年度に比べて2005年度は66%削減することができ、その中でもHCFC類を全廃することができました。

●有害化学物質の削減



PRTR法*への対応

PRTRの届出はグループ各社ごとに実施していますが、グループ全体を集計しますと、2005年度の届出は下の表のような結果になりました。

届出物質の種類は、17物質から12物質となりました。また、取扱量は2004年度の342トンから175トンと約半分に became.

その削減量167トンのうち、全廃をめざして活動を行った有機塩素系溶剤、代替フロンの削減量が2/3を占めています。

●シチズングループ化学物質排出・移動量

(単位:t)

化学物質名	取扱量	排出量					移動量	
		大気への排出	公共用水域への排出	当該事業所における土壌への排出	当該事業所における埋立処分	当該事業所における下水道への移動	事業所外への移動	
ジクロロメタン	59.2	39.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2
トリクロロエチレン	44.9	19.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	20.7
キシレン	27.9	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.2
ニッケル化合物	17.0	0.0	0.4	0.0	0.0	0.1	0.0	14.7
ふっ化水素及びその水溶性塩	8.7	0.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	7.2
2-アミノエタノール	5.3	0.0	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	5.3
ビスフェノールA型エポキシ樹脂	2.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	2.9
エチレングリコール	2.2	0.8	1.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3
コバルト及びその化合物	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
トルエン	2.1	1.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8
銀及びその水溶性化合物	1.6	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
無機シアン化合物	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
合 計	175.3	62.8	2.8	0.0	0.0	0.1	0.0	63.3

*PRTR法 : 有害性のある化学物質がどのような発生源からどれくらい環境中に排出されたか、あるいは廃棄物に含まれて事業所の外に運び出されたかというデータを、国、事業者団体などの機関が把握・集計・公表する法律

環境会計

シチズングループでは、環境保全にかかわる費用と効果を定量的に把握し、環境管理活動の効果を評価しています。

環境会計

2005年度はシチズン時計及び主要生産拠点と販売拠点のグループ会社を含め、集計対象範囲の連結環境会計を集計しました。

環境保全効果は2005年度はプラスチック容器包装使用量の増加がありましたが、エネルギー使用量、水使用量、化学物質使用量、CO₂排出量、排出物総量、紙容器包装使用量は減少しました。

また2004年度より排出物総量が減少し再資源化物量が増えた結果、再資源化率(P34参照)は向上しています。

経済効果の算定基準は実質効果のみ算出しており、い

わゆるリスク回避効果とみなし効果は算定していません。

当該期間の投資総額は18,468百万円、研究開発費総額は11,812百万円でした。

なお集計にあたり環境省環境会計ガイドライン(2005年版)を参考にしています。

●対象期間：2005年4月1日～2006年3月31日

●集計範囲

シチズン時計/シチズン埼玉/シチズンシービーエム/シチズン・システムズ/シチズンセイミツ/シチズンTIC/シチズン・ディスプレイズ/シチズン電子/シチズン東北/シチズンファインテック/シチズンプラザ/シチズン平和時計/シチズンマシナリー/シチズンミヨタ/シチズンメカトロニクス/狭山精密工業/シチズンセイミツ鹿児島/シチズン電子船引/シチズンタ張(計19社)

●環境保全コスト

環境保全コスト (単位:百万円)			
分 類	主な取組の内容	投資額	費用額
(1) 事業エリア内コスト		381	1,264
内 訳	①公害防止コスト	255	780
	②地球環境保全コスト	111	187
	③資源循環コスト	15	297
(2) 上・下流コスト	容器包装リサイクル、エコマーク使用	0	12
(3) 管理活動コスト	環境教育、環境マネジメントシステムの運用、社内緑化・美化	116	455
(4) 研究開発コスト	ソーラー発電時計、時計基礎技術の研究開発	114	489
(5) 社会活動コスト	社会貢献活動	0	2
(6) 環境損傷対応コスト		0	5
合 計		611	2,227

●環境保全効果

環境保全効果					
効果の内容		環境保全効果を表す指標			
		指標の分類	単位	2004年度	2005年度 増減量
(1) 事業エリア内コストに対応する効果	①事業活動に投入する資源に関する効果	エネルギー使用量	GJ	2,778,632	2,734,395 ▲ 44,237
		水使用量	千m ³	2,089	1,863 ▲ 226
		化学物質使用量	t	916	845 ▲ 71
		CO ₂ 排出量	t-CO ₂	117,524	116,921 ▲ 603
	②事業活動から排出する環境負荷及び廃棄物に関する効果	排水量	千m ³	1,757	1,525 ▲ 232
		排出物総量	t	7,398	7,372 ▲ 26
		再資源化物量	t	6,480	6,564 84
(2) 上・下流コストに対応する効果	③事業活動から産出する財・サービスに関する効果	プラスチックの容器包装使用量	t	396	474 78
		紙の容器包装使用量	t	229	143 ▲ 86

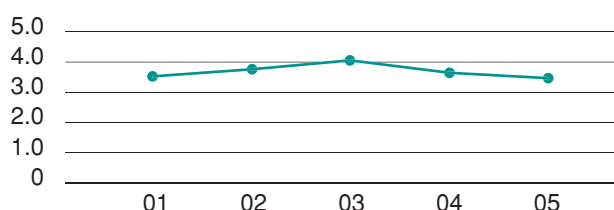
環境効率指標

$$\text{環境負荷売上指数} = \frac{\text{売上高}}{\text{環境負荷量} \times (\text{CO}_2)}$$

環境負荷売上指数は、2004年度よりわずかに低下しており、改善することが課題と考えています。

*環境負荷量は環境保全効果のCO₂排出量

●環境負荷売上指数 (百万円/t-CO₂)



第三者意見



五代 利矢子

評論家
シチズン・オブ・ザ・イヤー
選考委員会委員長

「市民に愛され親しまれるモノづくり」に徹して、暮らしへの貢献をめざすシチズンの熱い思いが、38ページの各紙面から明確に伝わってくる、読み応えのある報告書です。

今回の「2006CSR報告書」では、各種情報の共有化によるシナジー効果でグループ経営の総合力を高め、さらに2005年4月の「国連グローバル・コンパクト」参加を契機として、よりグローバルな企業として積極的に動き出した経過が見てとれます。

そうした視点から、代表的なエコ・ドライブ電波時計をはじめ、暮らしの安全や安心に寄与し、ライフスタイルを豊かにする多様な高品質の製品群を世に送り出してきたシチズングループが、展開のバックボーンともなるべきCSR体制を如何に進めてきたかが述べられています。推進委員が主体となり、「部門別リスク自己評価」を基に「実践目標」が設定され、検証が行われます。課題への取り組み状況は、ネガティブ情報も含めて透明性が担保されており、共感を持って読むことができました。

ステークホルダー対応や環境面での取り組みではすでに定評のあるところですが、この度、従業員に対する雇用メニューの提案や育児支援プログラム、人材育成カリキュラムも目にして、「人を大切にする」社の姿勢がここにも現れていると思いました。

ただ、従業員のCSRアンケートで1/3が「良くなっている」と認識し、残りの2/3が「どちらとも言えない」と「効果が見えない」と回答している率直な結果を重く受け止め、今後、取り組みの工夫でこの数値がアップするよう期待しております。



足達 英一郎

(株)日本総合研究所
上席主任研究員

世界の先進的投資家は、近年、投資対象企業のESG(環境、社会、ガバナンス)リスクならびに環境・社会問題に焦点を当てた製品イノベーション、事業革新能力に特に注目しており、こうした観点からの非財務情報の開示を、一層拡充されることを期待いたします。

■連結ベースの地域別売上高、地域別従業員数のいずれも過半数が海外にある現状にもかかわらず、本報告書の内容が国内の活動もしくはデータに偏重している点は課題です。地域独自の活動を否定するものではありませんが、最小限のマネジメント体制と情報開示のグローバルな統合(サプライチェーンを含む)を積極的に図ってください。

■経営成績、財務状況等に影響を及ぼす可能性がある「事業等のリスク」をCSRの観点から特定し、報告してください。この際、重要だと判断するステークホルダーとその期待の明確化を図ってください。

■「ミクロの世界で培われた高精度の技術力」は、社会に対する貢献の可能性を大いに秘めていると判断します。「シチズンとともに」として製品群が紹介されていますが、環境・社会問題解決への貢献度や技術の競争優位性などについて、より詳細な分析と情報開示を期待します。

なお、このコメントは、本報告書が、一般に公正妥当と認められる環境報告書などの作成基準に準拠して正確に測定、算出され、かつ重要な事項が漏れなく表示されているかどうかについて判断した結論を表明するものではありません。

第三者意見をいただいて

今回の第三者意見は、シチズン・オブ・ザ・イヤーの選考委員長を長く務めていただいています五代様と日本のCSR第一線でご活躍されています日本総合研究所の足達様にお願いしました。

五代様からは、これまでのシチズンのCSRの取り組みをよく理解いただいている立場から、シチズンの現在の取り組みに過分のお言葉をいただきました。CSRアンケートの結果につきましては、五代様のご指摘の通りに改めて重く受け止め、今後のCSR活動に取り組んでまいります。

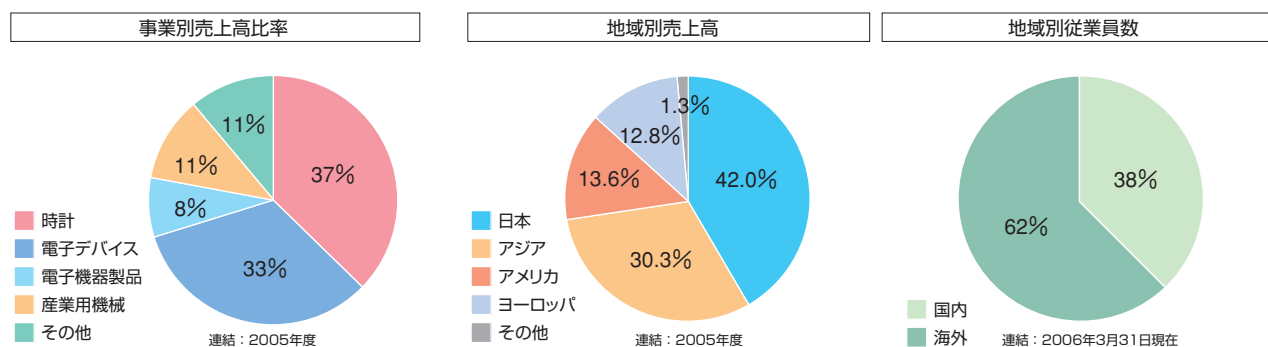
足達様には、情報開示の足らざる部分について専門的な立場から貴重なご指摘をいただきました。グローバルな面からの情報開示、CSRの観点からのリスク開示、シチズンの技術力の環境や社会問題に対する貢献度や競争優位性の分析と情報開示など、次回の報告書で生かしてまいります。

お二人にはご多忙中にもかかわらず、報告書に目を通していただき大変感謝申し上げます。

CSR委員会

会社概要

社名	シチズン時計株式会社
設立	1930年5月28日
本社所在地	〒188-8511 東京都西東京市田無町6-1-12
代表者	代表取締役社長 梅原 誠
資本金	326億4,889万円[2006年3月31日現在]
従業員数	1,448人[2006年3月31日現在]
売上高	3,359億円(連結：2005年度)
上場	東京証券取引所第一部



www.citizen.co.jp/company/
会社案内

www.citizen.co.jp/ir/financial/
財務・業績

あゆみ

1918	3	シチズン時計の前身、尚工舎時計研究所創立	1993	5	世界初多局受信型「電波時計」発売
1924	12	懐中時計第1号完成	1994	11	世界最小軽量プリンター「PN60」欧米で発売
1930	5	シチズン時計株式会社創立	1995	5	10年間無償保証・生涯修理対応ウォッチ「ザ・シチズン」発売
1931	6	腕時計第1号完成	1995	11	光発電エコ・ドライブ搭載ウォッチ発売
1956	4	国産初の耐震装置「パラショック」発売、投下実験開始	1998	12	環境方針の発行
1959	7	国産初の完全防水ウォッチ「パラウォーター」発売	1999	8	ISO14001認証取得
1966	3	国産初の電子ウォッチ「エクスエイト」発売	1999	9	環境管理室設置
1970	12	CNC自動旋盤「シンコム」開発	2000	12	「環境報告書2000」発行
1973	8	水晶ウォッチ「シチズンクォーツ」発売	2001	5	シチズングループ環境管理事務局会議及び分科会（エネルギー、廃棄物、有害物質）発足
1976	3	水晶振動子の生産開始	2003	6	世界初アンテナ内蔵型フルメタルケース電波時計発売
1976	8	世界初のアナログ式太陽電池ウォッチ「ソーラーセル」発売	2003	9	CSR委員会、CSR推進委員会発足
1983	3	チップLED発売	2004	1	シチズン企業行動憲章施行
1983	5	電子体温計発売	2004	7	CSR室設置
1984	6	世界初の1インチ厚3.5インチFDD発売	2004	8	「環境社会報告書2004」発行
1990	1	市民顕彰制度「シチズン・オブ・ザ・イヤー」創設	2005	4	国連グローバル・コンパクトに参加
1991	12	環境保全委員会及び分科会（廃棄物、省エネ省資源、意識高揚、塩ビ）発足 ＜東京事業所＞	2005	10	「2005CSR報告書」発行
			2006	1	社会貢献グループ設置

www.citizen.co.jp/social/history/
CSR活動のあゆみ



シチズン時計株式会社

●お問い合わせ先

シチズン時計株式会社 CSR室

〒188-8511

東京都西東京市田無町6-1-12

TEL 042-468-4776

FAX 042-468-4775

シチズンホームページ <http://www.citizen.co.jp/>

英文Web版CSR報告書 <http://www.citizen.co.jp/english/csr/>

2006年6月発行

次回発行 2007年6月



CSR報告書のご請求は…
<http://www.ecohotline.com>



古紙配合率100%再生紙を使用しています。



この報告書はエコマーク認定の再生紙・古紙100%の再生紙を使用しています。
また、印刷には、現像液を使うフィルムが不要で環境負荷低減につながるCTP印刷を採用しています。
さらに、成分解性や脱墨性に優れ、印刷物のリサイクルが容易な大豆インキを使用しています。